

(様式第 10)

千大総第 330 号
平成 29 年 9 月 26 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人千葉大学長
徳久剛史 (印)

千葉大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
氏 名	国立大学法人千葉大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

千葉大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1	電話(043)222-7171
-------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
⑤神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
①呼吸器外科 5血管外科	2消化器外科 ⑥心臓血管外科	3乳腺外科 7内分泌外科	4心臓外科 ⑧小児外科
診療実績			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 呼吸器科	2 心療内科	3 リハビリテーション科	4 循環器科	5 形成外科	6 病理診断科		
7 歯科口腔外科	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
45 床	5 床	0 床	0 床	800 床	850 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	248 人	493 人	592.5 人	看護補助者	93 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	8 人	23 人	27.6 人	理学療法士	25 人	臨床検査技師	80 人
薬 剤 師	51 人	20 人	66.9 人	作業療法士	12 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	6 人	その他	0 人
助産師	50 人	0 人	50.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	1 人
看護師	937 人	41 人	971.2 人	臨床工学士	19 人	医療社会事業従事者	11 人
准看護師	1 人	1 人	2.0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	92 人
歯科衛生士	1 人	3 人	4.0 人	歯科技工士	0 人	事務職員	327 人
管理栄養士	8 人	6 人	14.0 人	診療放射線技師	48 人	その他の職員	45 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	47 人	眼 科 専 門 医	15 人
外 科 専 門 医	72 人	耳鼻咽喉科専門医	14 人
精神科専門医	7 人	放射線科専門医	13 人
小児科専門医	15 人	脳神経外科専門医	13 人
皮膚科専門医	10 人	整形外科専門医	21 人
泌尿器科専門医	11 人	麻酔科専門医	18 人
産婦人科専門医	20 人	救急科専門医	13 人
		合 計	289 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (山本 修一) 任命年月日 平成26年4月1日、平成29年4月1日再任

平成26年4月1日就任前
・経験なし
平成29年4月1日再任前 (H28.6.10 医療法施行規則改正後)
・医療の質・安全管理委員会委員長 (平成26年4月1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	639人	13人	652人
1日当たり平均外来患者数	2,059人	79人	2,138人
1日当たり平均調剤数	入院：868剤 外来：48剤		
必要医師数			183人
必要歯科医師数			6人
必要薬剤師数			22人
必要（准）看護師数			398人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	374.75m ²	鉄筋コンクリート	病床数	22床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 507m ² [移動式の場合] 台数 2台		病床数	40床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 85.71m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	403 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体搬送システム、生化学用自動分析装置、化学発光法測定装置、酸素免疫法測定装置、血液ガス分析装置、HbA1c分析装置、赤血球沈降速度分析装置、電気泳動分析装置、超低温保冷库(ディープフリーザー)			
細菌検査室	80 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 細菌同定・薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養検査装置、自動染色装置、血液培養自動分析装置、細菌同定用質量分析装置、顕微鏡(蛍光を含む)、安全キャビネット			
病理検査室	408 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置、組織切片薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片薄切装置、パラフィン包埋機			
病理解剖室	74 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、切出台、固定槽、撮影装置			
研究室	718 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、近赤外光イメージング装置、脳波計等			
講義室	736.01m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	収容定員	504人
図書室	160.5 m ²	鉄筋コンクリート	室数	5室	蔵書数	17,150冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	85.8%	逆紹介率	78.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数			19,046人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			18,884人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,602人
	D: 初診の患者の数			24,058人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学名誉教授	○	医療安全識見者 かつ病院管理経験者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
手島 英男	税理士法人千葉中央会計事務所長		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究に関する学識 経験者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院社会科学研究院教授		法律学専門家	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
岩間 厚志	千葉大学大学院医学研究院教授		千葉大学学術研究推進機構研究 活動適正推進部門研究活動適正 推進部会副部長	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
矢島 鉄也	千葉県病院事業管理者		病院管理経験者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
藤原 康弘	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院副院長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
花輪 正明	塩野義製薬株式会社薬事部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
齋藤 宏暢	第一三共株式会社研究開発本部オンコロジー臨床開発部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3

井上 安	独立行政法人 中小企業基盤 整備機構関東 本部千葉大亥 鼻イノベーション センター マナー		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
------	---	--	---------	---------------------------------------	---

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	34	56	ベーチェット病	333
2	筋萎縮性側索硬化症	64	57	特発性拡張型心筋症	197
3	脊髄性筋萎縮症	34	58	肥大型心筋症	243
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	45	60	再生不良性貧血	142
6	パーキンソン病	600	61	自己免疫性溶血性貧血	70
7	大脳皮質基底核変性症	32	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	7
8	ハンチントン病	12	63	特発性血小板減少性紫斑病	320
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	11
10	シャルコー・マリー・トゥース病	36	65	原発性免疫不全症候群	32
11	重症筋無力症	507	66	IgA腎症	54
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	481	68	黄色靱帯骨化症	80
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	126	69	後縦靱帯骨化症	467
15	封入体筋炎	14	70	広範脊柱管狭窄症	9
16	クドウ・深瀬症候群	52	71	特発性大腿骨頭壊死症	74
17	多系統萎縮症	48	72	下垂体性ADH分泌異常症	156
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	225	73	下垂体性TSH分泌亢進症	7
19	ライソゾーム病	18	74	下垂体性PRL分泌亢進症	13
20	副腎白質ジストロフィー	5	75	クッシング病	43
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	22
22	もやもや病	78	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	135
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	490
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	272
25	進行性多巣性白質脳症	4	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	50	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	11
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	14	83	アジソン病	14
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	998
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	369
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	239
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	171
34	神経線維腫症	62	89	リンパ脈管筋腫症	12
35	天疱瘡	46	90	網膜色素変性症	957
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	7
37	膿疱性乾癬(汎発型)	42	92	特発性門脈圧亢進症	22
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	17	93	原発性胆汁性肝硬変	420
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	51
40	高安動脈炎	105	95	自己免疫性肝炎	425
41	巨細胞性動脈炎	25	96	クローン病	375
42	結節性多発動脈炎	74	97	潰瘍性大腸炎	793
43	顕微鏡的多発血管炎	181	98	好酸球性消化管疾患	59
44	多発血管炎性肉芽腫症	103	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	6
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	51	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	95	101	腸管神経節細胞減少症	1
47	パージャー病	181	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	10	103	CFC症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	1305	104	コステロ症候群	1
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	342	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	384	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	198	107	全身型若年性特発性関節炎	10
53	シェーグレン症候群	1328	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人スチル病	27	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	16	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	7	161	家族性良性慢性天疱瘡	4
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	122
113	筋ジストロフィー	93	163	特発性後天性全身性無汗症	8
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	2	164	眼皮皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	4
117	脊髄空洞症	69	167	マルファン症候群	31
118	脊髄髄膜瘤	10	168	エーラス・ダンロス症候群	11
119	アイザックス症候群	4	169	メンケス病	1
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	15
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	4
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	1
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	3
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	8
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	5
133	メビウス症候群	1	183	ファイファー症候群	4
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	2	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	5	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	12
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	2
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	2	193	プラダー・ウィリ症候群	4
144	レノックス・ガストー症候群	7	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	26	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	1
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	5
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	4
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	2	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	4	206	脆弱X症候群	1
157	スタージ・ウェーバー症候群	8	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	19	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	4	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	9	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	4	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	2
215	ファロー四徴症	15	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	5	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	7
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	25
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	53	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	21
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	8	271	強直性脊椎炎	27
224	紫斑病性腎炎	11	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	14
227	オスラー病	17	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	23	276	軟骨無形成症	9
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	12	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	2	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	6
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	343	283	後天性赤芽球癆	6
236	偽性副甲状腺機能低下症	18	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	15	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	7
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	5
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	6
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	42
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	11	294	先天性横隔膜ヘルニア	11
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	85
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	33
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	32
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	6	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	23

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	4	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	7	321	非ケトーシス型高グリシン血症	1
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	1
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	2
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	病棟薬剤業務実施加算 2
歯科外来診療環境体制加算	データ提出加算2 (イ)
歯科診療特別対応連携加算	退院支援加算 2
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料	精神疾患診療体制加算
特定機能病院入院基本料 精神病棟 13対1入院基本料	特定集中治療室管理料 4 特定集中治療室管理料 小児加算
超急性期脳卒中加算	総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料
診療録管理体制加算 1	総合周産期特定集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
医師事務作業補助体制加算 1 (75対1)	新生児治療回復室入院医療管理料
25対1急性期看護補助体制加算 (看護補助者5割以上)	小児入院医療管理料 2 小児入院医療管理料 注2の加算 (プレイルーム加算)
看護職員夜間12対1配置加算 1	
療養環境加算	施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目
重症者等療養環境特別加算	臨床研修病院入院診療加算 (歯科診療以外)
無菌治療室管理加算 1	臨床研修病院入院診療加算 (歯科診療に限る)
無菌治療室管理加算 2	救急医療管理加算
緩和ケア診療加算	妊産婦緊急搬送入院加算
精神科身体合併症管理加算	乳幼児加算・幼児加算
精神科リエゾンチーム加算	超重症児 (者) 入院診療加算・準超重症児 (者) 入院診療加算
摂食障害入院医療管理加算	小児療養環境特別加算
医療安全対策加算 1	がん診療連携拠点病院加算
感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
総合評価加算	
病棟薬剤業務実施加算 1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料 注2の加算	国際標準検査管理加算
高度難聴指導管理料	遺伝カウンセリング加算
糖尿病合併症管理料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
がん性疼痛緩和指導管理料	時間内歩行試験 シャトルウォーキングテスト
がん患者指導管理料1	胎児心エコー法
がん患者指導管理料2	ヘッドアップティルト試験
がん患者指導管理料3	長期継続頭蓋内脳波検査
外来緩和ケア管理料	神経学的検査
移植後患者指導管理料1. 臓器移植後の場合	補聴器適合検査
移植後患者指導管理料2. 造血幹細胞移植後の場合	ロービジョン検査判断料
糖尿病透析予防指導管理料	コンタクトレンズ検査料1
外来放射線照射診療料	小児食物アレルギー負荷検査
ニコチン依存症管理料	内服・点滴誘発試験
がん治療連携計画策定料	センチネルリンパ節生検（併用法） 乳がんセンチネルリンパ節加算1
肝炎インターフェロン治療計画料	センチネルリンパ節生検（単独法） 乳がんセンチネルリンパ節加算2
薬剤管理指導料	CT透視下気管支鏡検査加算
医療機器安全管理料1	画像診断管理加算1
医療機器安全管理料2	遠隔画像診断
歯科治療総合医療管理料（Ⅰ）及び（Ⅱ）	ポジトロン断層撮影
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
持続血糖測定器加算 皮下連続式グルコース測定	CT撮影及びMRI撮影 （CT 6件、MRI 5件）
在宅患者歯科治療総合医療管理料（Ⅰ）及び（Ⅱ）	冠動脈CT撮影加算
遺伝学的検査	心臓MRI撮影加算
HPV核酸検出	乳房MRI撮影加算
HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
検体検査管理加算（Ⅰ）	外来化学療法加算1
検体検査管理加算（Ⅳ）	無菌製剤処理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
心大血管疾患リハビリテーション料(I) 心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
運動器リハビリテーション料(I) 運動器リハビリテーション料 初期加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
呼吸器リハビリテーション料(I) 呼吸器リハビリテーション料 初期加算	網膜再建術
がん患者リハビリテーション料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
歯科口腔リハビリテーション料2	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)
認知療法・認知行動療法1	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)
認知療法・認知行動療法2	乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
医療保護入院等診療料	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの))
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	同種死体肺移植術
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1(歯科)	生体部分肺移植術
硬膜外自家血注入	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの)
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	経カテーテル大動脈弁置換術
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	経皮的中隔心筋焼灼術
透析液水質確保加算2	ペースメーカー移植術及び ペースメーカー交換術
磁気による膀胱等刺激法	両心室ペースメーカー移植術及び 両心室ペースメーカー交換術
CAD/CAM冠	植込型除細動器移植術及び 植込型除細動器交換術及び 経静脈電極除去術
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	両室 ^{ベ-シク} 機能付き植込型除細動器移植術及び 両室 ^{ベ-シク} 機能付き植込型除細動器交換術
組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る)	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))	補助人工心臓
骨移植術(軟骨移植術を含む) (自家培養軟骨移植術に限る)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
腫瘍脊椎骨全摘術	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	胃瘻造設術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む) 及び脳刺激装置交換術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
体外衝撃波胆石破碎術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下肝切除術	外来放射線治療加算
生体部分肝移植術	高エネルギー放射線治療
同種死体肝移植術	1回線量増加加算
体外衝撃波膀胱石破碎術	強度変調放射線治療（IMRT）
腹腔鏡下膀胱尾部腫瘍切除術	画像誘導放射線治療（IGRT）
腹腔鏡下膀胱十二指腸切除術	体外照射呼吸性移動対策加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	直線加速器による定位放射線治療
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	定位放射線治療呼吸移動対策加算（その他のもの）
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 （内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	画像誘導密封小線源治療加算
同種死体腎移植術	病理診断管理加算2
生体腎移植術	口腔病理診断管理加算2
膀胱水圧拡張術	クラウン・ブリッジ維持管理料
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	
人工尿道括約筋植込・置換術	施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	悪性腫瘍特異物質治療管理料
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 （内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	小児特定疾患カウンセリング料
手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	小児科療養指導料
手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1（歯科）	外来栄養食事指導料
輸血管理料 I	入院栄養食事指導料
貯血式自己血輸血管理体制加算	集団栄養食事指導料
自己生体組織接着剤作成術	心臓ペースメーカー指導管理料 （植込型除細動器移行期加算）
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	小児悪性腫瘍患者指導管理料
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	小児科外来診療料
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	乳幼児育児栄養指導料
麻酔管理料（I）	夜間休日救急搬送医学管理料
麻酔管理料（II）	外来リハビリテーション診療料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
生活習慣病管理料	上顎骨悪性腫瘍手術等
がん治療連携管理料	バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）
認知症専門診断管理料	母指化手術等
造血器腫瘍遺伝子検査	内反足手術等
植込型心電図検査	食道切除再建術等
大腸CT撮影加算	同種腎移植術等
廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術（通則4に掲げる手術を除く）
児童思春期精神科専門管理加算	ペースメーカー移植術
一酸化窒素吸入療法（新生児の低酸素性呼吸困難に対して実施するものに限る）	ペースメーカー交換術
経皮的冠動脈形成術	経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈ステント留置術	経皮的冠動脈粥腫切除術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	経皮的冠動脈ステント留置術
経皮的動脈遮断術	人工関節置換術
ダメージコントロール手術	乳児外科対象手術
頭蓋内腫瘍摘出術等	冠動脈及び大動脈バイパス移植術並びに体外循環を要する手術
黄斑下手術等	
鼓室形成手術等	
肺悪性腫瘍手術等	
経皮的カテーテル心筋焼灼術	
靭帯断裂形成手術等	
水頭症手術等	
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	
尿道形成手術等	
角膜移植術	
肝切除術等	
子宮付属器悪性腫瘍手術等	
上顎骨形成術等	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心筋前駆細胞移植床による新生心筋の起源と分化・分裂・増殖因子の網羅的解析	永井 敏雄	循環器内科学	6,500,000	(補委) 日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた重症心不全における左室逆リモデリング予測因子の探索	小林 欣夫	循環器内科学	3,880,000	(補委) 日本学術振興会
遺伝子導入血小板を用いた新規血管再生治療の開発	舘野 馨	循環器内科	4,940,000	(補委) 日本学術振興会
急性心筋梗塞後の心不全発症・進展におけるIL-21の役割の解明	久保田 暁彦	循環器内科	1,000,000	(補委) (公財)土屋文化振興財団
早期糖代謝異常が動脈硬化に及ぼす影響に関する年代別検討	中込 敦士	循環器内科	800,000	(補委) ちば県民保健予防財団
トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究	宇野 隆	画像診断・放射線腫瘍学	192,308	(補委) 日本医療研究機構
質の高い放射線治療の普及と均てん化のための基盤研究	宇野 隆	画像診断・放射線腫瘍学	200,000	(補委) 国立がん研究センター
がん診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の運用と他がん登録との連携	宇野 隆	画像診断・放射線腫瘍学	100,000	(補委) 厚生労働省
肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	宇野 隆	画像診断・放射線腫瘍学	150,000	(補委) 山梨大学
若年者の性腺ばくばくによる任孕性の異常の解析と予防法の開発	宇野 隆	画像診断・放射線腫瘍学	1,200,000	(補委) 日本学術振興会
3D MRI撮像法開発による新規子宮頸癌MRI/CT画像誘導小線源治療の確立	渡辺 未歩	画像診断・放射線腫瘍学	1,100,000	(補委) 日本学術振興会
日本人の頭頸部癌患者におけるCetuximabを含む治療の観察研究	宇野 隆	画像診断・放射線腫瘍学	269,230	(補委) 日本放射線腫瘍学研究機構
4次元MRI画像から低ひびくの仮想4次元CTを作成する新たな画像融合技術の開発	滝嶋 葉月	放射線科	900,000	(補委) 日本学術振興会
閉経早期からの薬剤治療介入(SERM,ビタミンD)は筋内ビタミンD 受容体数減少と筋質低下を抑制する	稲毛一秀	整形外科	1,500,000	(補委) 中富健康科学振興財団
骨粗鬆症患者に対する各骨粗鬆症薬投与がもたらす経時的変化に関する多施設登録制度の確立	稲毛一秀	整形外科	500,000	(補委) MSD
高分解拡散テンソル画像による外傷性脊髄神経根病変の可視化	金元洋人	整形外科	1,000,000	(補委) 日本損害保険協会
週齢に応じたラット軟骨部分損傷の自然経過の差異を介入効果の指標とする検討	佐粧孝久	整形外科	5,000,000	(補委) 日本学術振興会
骨コラーゲンの質的要素を考慮した有限要素解析による骨強度測定法の確立	松浦佑介	整形外科	5,000,000	(補委) 日本学術振興会
ウェアラブル端末とクラウド型データベースによる次世代型データを用いた腰痛病態・治療効果関連評価の再構築に関わる大規模縦断型調査	折田純久	整形外科	16,500,000	(補委) 日本整形外科学会
非侵襲性着床前遺伝子スクリーニングNIPGSをめざす探索研究	生水真紀夫	生殖医学	2,730,000	(補委) 日本学術振興会
多職種からなる周産期急変対応チームの育成システム構築に関する研究	長田久夫	生殖医学	650,000	(補委) 日本学術振興会
肥満・インスリン抵抗性を標的にした外ホルミンの子宮体癌予防にむけた臨床的研究	三橋 暁	生殖医学	1,820,000	(補委) 日本学術振興会
ゲノム・エピゲノム解析による子宮頸癌前駆病変(CIN)患者の子宮頸癌発癌リスクの特定とそれに基づくCIN患者の個別化リスク低減法に関する研究	三橋 暁	生殖医学	2,248,877	(補委) 日本大学
血清microRNAプロファイルに基づく侵入奇胎の早期診断法確立・成立機序の解明	碓井 宏和	生殖医学	1,560,000	(補委) 日本学術振興会
子宮筋腫におけるミトコンドリア機能とエネルギー代謝経路に関する研究	石川 博士	婦人科	1,170,000	(補委) 日本学術振興会
自然周期採卵における小卵胞由来卵子の由来推定とその有用性	田中 宏一	生殖医学	1,950,000	(補委) 日本学術振興会
血漿RNAはTLR3を介して妊娠高血圧症候群を惹起する	中田 恵美里	婦人科	1,950,000	(補委) 日本学術振興会
卵巣明細胞腺癌のテロメラーゼ逆転写酵素の変異とビタミンA/Dの腫瘍抑制効果	錦見 恭子	婦人科	2,340,000	(補委) 日本学術振興会
ラット脳性麻痺モデルを使ったプロゲステロンの脳障害回避効果の検証と作用機序の解析	河原井 麗正	婦人科	2,080,000	(補委) 日本学術振興会
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	山本 修一	眼科	100,000	(補委) 厚生労働省

小計30

次世代シーケンサーを用いたわが国の網膜色素変性患者の遺伝子診断システムの構築	山本 修一	眼科	72,000	補委	文部科学省
ミューラー細胞におけるWRN遺伝子を介したアポトーシス制御機構	北橋 正康	眼科	1,633,656	補委	文部科学省
網膜剥離に対する α β クリスタリンの視細胞保護効果	馬場 隆之	眼科	1,000,000	補委	文部科学省
神経保護合点眼による視神経性減モデル・NMDA投与	忍足 俊幸	眼科	1,400,000	補委	文部科学省
去勢抵抗性前立腺癌における機能性RNA分子経路の解明と革新的治療法の開発	市川智彦	泌尿器科	6,500,000	補委	日本学術振興会
尿流動態の3次元評価とナビゲーション開発	仲村和芳	泌尿器科	1,040,000	補委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌における新規治療薬の治療効果比較解析	今村有佑	泌尿器科	1,430,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌転移抑制型マイクロRNAが制御する細胞外マトリックス分子伝達機構の解明	西川里佳	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
機能性RNA活性化シグナル遮断による虚勢抵抗性前立腺癌新規治療法の探索	五島悠介	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌転移抑制型マイクロRNAが制御する細胞外マトリックス分子経路の解明	加藤満子	泌尿器科	2,080,000	補委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)における癌抑制型クラスターマイクロRNAの機能解析と新規治療標的分子探索	五島悠介	泌尿器科	300,000	補委	公益財団法人猪之鼻奨学会
LOXL2/ITGB1分子経路遮断による治療抵抗性前立腺癌の転移抑制効果の検証	黒住 顕	泌尿器科	2,000,000	補委	公益財団法人双葉電子記念財団
免疫療法による花粉症治療の新しい展開を目指した研究	岡本 美孝(代表) 花澤 豊行(分担) 櫻井 大樹(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	29,380,000	補委	日本医療研究開発機構
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	岡本 美孝(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	650,000	補委	日本医療研究開発機構
鼻粘膜を介したNKT細胞活性化による頭頸部癌に対するアジュバント療法の開発	岡本 美孝(代表) 櫻井 大樹(分担) 福本 一郎(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	3,900,000	補委	文部科学省
EXiLE法を用いた舌下免疫療法の機序解明と奏効性予測バイオマーカーの探索	岡本 美孝(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	900,000	補委	文部科学省
頭頸部扁平上皮癌におけるマイクロRNAを基としたセツキンマブ効果予測因子の探索	花澤 豊行(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	1,300,000	補委	文部科学省
頭頸部癌による腫瘍免疫抑制機構の解明と新規治療法の開発	櫻井 大樹(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	1,560,000	補委	文部科学省
唾液腺癌に対するCAR発現T細胞とNKT細胞の併用による養子免疫療法	國井 直樹(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委	文部科学省
リポソームとNKT細胞免疫系を用いたアレルギー性鼻炎の新規治療法	米倉 修二(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,820,000	補委	文部科学省
アレルギー性鼻炎に対する光線力学的新治療法の開発	鈴木 猛司(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	2,080,000	補委	文部科学省
頭頸部扁平上皮癌の新規血清マーカー開発	堅田 浩司(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	2,860,000	補委	文部科学省
腫瘍免疫の解析による頭頸部癌cetuximab療法の効果予測と効果増強因子の検索研究課題	山崎 一樹(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委	文部科学省
頭頸部癌転移抑制型マイクロRNAが制御する細胞外マトリックスシグナル機構の解明	福本 一郎(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,820,000	補委	文部科学省
治療抵抗性頭頸部扁平上皮癌において活性化されている機能性RNA分子経路の探索	吉川 直子(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,820,000	補委	文部科学省
頭頸部癌患者に対するiNKT細胞療法、及び免疫療法の効果に影響する免疫応答の網羅的解析	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	45,979	補委	理化学研究所
ダニ抗原特異的舌下免疫療法製剤の開発	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	3,171,057	補委	塩野義製薬
スギ花粉症における免疫療法の効果を予測するための生体由来因子の測定	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	2,677,497	補委	鳥居製薬
T0-206第II/III相臨床試験-スギ花粉症患者を対象とした有効性及び安全性の検討-	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	810,000	補委	鳥居製薬
新生児からの皮膚および腸管環境の整備に基づく吸入アレルギー感作・ぜん息・ぜん息発症の予防に関する研究	下条 直樹	小児科	2,063,070	補委	環境再生保全機構

オミクス解析に基づくアレルギー発症機序の理解と制御基板の構築	下条 直樹	小児科	9,500,000	補委	日本医療研究開発機構
アレルギー疾患の発症・病態に関わる皮膚・腸管の細菌・真菌叢の解析	下条 直樹	小児科	11,740,000	補委	日本医療研究開発機構
食物アレルギーの寛解誘導に関わるmicroRNAとその転写後制御の解析	下条 直樹	小児科	1,883,847	補委	日本医療研究開発機構
ヘッジホグシグナル異常症に対するゲノム編集と先制医療	藤井 克則	小児科	1,400,000	補委	日本学術振興会
オートファジーが胎児成長に及ぼす効果とその機序の解明	高谷 具純	小児科	1,200,000	補委	日本学術振興会
巨脳症-毛細血管奇形症候群におけるPI3K/AKT経路の網羅的解析とその制御	塩濱 直	小児科	1,400,000	補委	日本学術振興会
医療観察法における鑑定入院アウトカム指標の確立と検証に関する研究	椎名明大	精神神経科 こどものこころ診療部	4,340,000	補委	文部科学省
グリア細胞由来神経栄養因子に基づく注意障害の病態解明に関する研究	新津富央	精神神経科 こどものこころ診療部	3,900,000	補委	文部科学省
古くて新しい革新的ADHD治療 -チベピジン-	佐々木 剛	精神神経科 こどものこころ診療部	800,000	補委	文部科学省
感覚ゲート機構不全に基づいた精神疾患の新規病態解析研究	橋本 佐	精神神経科 こどものこころ診療部	835,506	補委	文部科学省
措置入院後の支援体制に関する研究	椎名明大	精神神経科 こどものこころ診療部	5,147,000	補委	厚生労働省
血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別補助診断法の開発に関する研究	伊豫雅臣 研究代表者:橋本謙二	精神神経科 こどものこころ診療部	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
うつ症状の神経基盤モデルに基づく診断・治療法の開発-皮質・側坐核・中脳系への着目	伊豫雅臣 研究代表者:橋本謙二	精神神経科 こどものこころ診療部	5,000,000	補委	日本医療研究開発機構
治療抵抗性統合失調症の治療手順の開発とiPS細胞を用いた創薬研究	伊豫雅臣	精神神経科 こどものこころ診療部	4,000,000	補委	日本医療研究開発機構
青年期の発達障害者に対するグループ認知行動療法の就労支援効果に関する検証	椎名明大	精神神経科 こどものこころ診療部	430,000	補委	日本科学協会
ドパミン神経系の遺伝子多型セットの多様性と統合失調症薬物療法の個別性に関する研究	伊豫雅臣	精神神経科 こどものこころ診療部	1,000,000	補委	(公財)先進医薬研究振興財団
電気けいれん療法のドパミン過感受性精神病に対する過感受性解除作用の検討	小田靖典	精神神経科 こどものこころ診療部	1,000,000	補委	(公財)先進医薬研究振興財団
子どもの摂食障害、発達障害の脳ハビリテーション法の開発、認知特性と神経基盤の解明	中里道子	精神神経科 こどものこころ診療部	4,810,000	補委	文部科学省
摂食障害の診療体制整備に関する研究	中里道子	精神神経科 こどものこころ診療部	1,000,000	補委	厚生労働省
カテニンを介したカドヘリン複合体ならびにWnt経路の制御による癌転移抑制剤の開発	丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	10,400,000	補委	文部科学省
癌特異的ペプチドを標的とした新規drug delivery systemの開発	丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	1,560,000	補委	文部科学省
新規頭頸部癌分子標的治療薬セツキシマブの副作用軽減治療薬の開発	鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	1,560,000	補委	文部科学省
癌と周囲細胞に対するlong non codingRNAの作用と新規治療法の開発	椎葉 正史	歯科・顎・口腔外科	6,370,000	補委	文部科学省
脂肪由来幹細胞へのMyoD family 遺伝子導入による筋の再生	坂本 洋右	歯科・顎・口腔外科	1,690,000	補委	文部科学省
$\alpha 1 \beta 1$ インテグリンを介した癌進展メカニズムの解明と増殖抑制法の開発	小池 一幸	歯科・顎・口腔外科	1,690,000	補委	文部科学省
新規頭頸部癌分子標的治療薬セツキシマブに対する耐性機構の解明と克服治療薬の開発	小河原 克訓	歯科・顎・口腔外科	6,110,000	補委	文部科学省
$\alpha 5 \beta 3$ インテグリンを介した癌進展メカニズムの解明と増殖抑制法の開発	皆川 康之	歯科・顎・口腔外科	2,210,000	補委	文部科学省
閉塞性睡眠時無呼吸患者の全身麻酔覚醒・抜管方法に関する研究	磯野 史朗	麻酔・疼痛・緩和医療科	5,050,000	補委	文部科学省
周術期せん妄と睡眠時間の関連について	孫 慶淑	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,730,614	補委	文部科学省
小胞体化学シャペロンによる吸入麻酔薬の神経毒性の制御	小見田 真理	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,769,805	補委	文部科学省

睡眠時無呼吸患者の術前24時間血圧変動パタ	岡崎 純子	麻酔・疼痛・緩和医療科	703,908	(補委)	文部科学省
マスク人工呼吸中の呼吸時流量制限のメカニズム研究	雨宮 めぐみ	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,510,232	(補委)	文部科学省
ICG結合ナノキャリアを用いた脳腫瘍の新規化学療法	岩立 康男	脳神経外科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
重粒子線治療後の誘発腫瘍における新規原因遺伝子の模索	足立 明彦	脳神経外科	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
背景肺異常を有する肺癌の早期発見を目指した新たなスクリーニング方法の開発	中島崇裕	呼吸器外科	1,300,000	(補委)	ちば県民保健予防財団
呼吸不全に関する調査研究	巽浩一郎	呼吸器内科	12,113,000	(補委)	厚生労働省
呼吸不全に関する調査研究	田邊信宏	呼吸器内科	100,000	(補委)	厚生労働省
呼吸不全に関する調査研究	多田裕司	呼吸器内科	100,000	(補委)	厚生労働省
呼吸不全に関する調査研究	坂尾誠一郎	呼吸器内科	100,000	(補委)	厚生労働省
呼吸不全に関する調査研究	津島健司	呼吸器内科	100,000	(補委)	厚生労働省
呼吸不全に関する調査研究	寺田二郎	呼吸器内科	100,000	(補委)	厚生労働省
重症肺高血圧症に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	巽浩一郎	呼吸器内科	7,280,000	(補委)	日本医療研究開発機構
官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発	巽浩一郎	呼吸器内科	7,800,000	(補委)	日本医療研究開発機構・(公財)木原記念横浜生命科学振興財団
自己免疫性肺胞蛋白症に対する酵母由来組換えGM-CSF吸入の多施設共同医師主導治験	巽浩一郎	呼吸器内科	3,700,000	(補委)	日本医療研究開発機構
肺胞蛋白症、遺伝性間質性肺疾患に関する研究:重症難治化要因とその克服	巽浩一郎	呼吸器内科	150,000	(補委)	日本医療研究開発機構
疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症例登録研究	巽浩一郎	呼吸器内科	300,000	(補委)	厚生労働省
疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症例登録研究	田邊信宏	呼吸器内科	300,000	(補委)	厚生労働省
有効性と安全性を維持した在宅呼吸管理の対面診療間隔決定と機器使用のアドヒアランスの向上を目指した遠隔モニタリングモデル構築を目指す検討	巽浩一郎	呼吸器内科	200,000	(補委)	厚生労働省
肺高血圧症ラット肺移植モデルによる治療抵抗性血管病変の病態解明及び創薬シース探索	坂尾誠一郎	呼吸器内科	1,170,000	(補委)	日本学術振興会
呼吸における神経可塑性の役割ー睡眠中の上気道開存について	寺田二郎	呼吸器内科	780,000	(補委)	日本学術振興会
COPD肺線維芽細胞における細胞外マイクロRNAの分泌機構およびその機能の解析	伊狩潤	呼吸器内科	1,950,000	(補委)	日本学術振興会
大学の特色に適応可能な結核検診マトリックスの作成	潤間励子	呼吸器内科	2,340,000	(補委)	日本学術振興会
大学の特色に適応可能な結核検診マトリックスの作成	巽浩一郎	呼吸器内科	150,000	(補委)	日本学術振興会
臨床検体を用いたプロテオミクスによる転移性骨腫瘍の分子背景の解明と新規治療法開発	多田裕司	呼吸器内科	150,000	(補委)	日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患における呼気ガス分析	川田奈緒子	呼吸器内科	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
肺動脈付着細胞を用いた慢性肺血栓塞栓症動物モデル確立と肺血管リモデリング機序解明	重城喬行	呼吸器内科	1,690,000	(補委)	日本学術振興会
肺動脈性肺高血圧症モデルマウスにおける内皮間葉転換の肺血管リモデリングへの作用	西村倫太郎	呼吸器内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
肺血管内皮系細胞における組織常在性幹/前駆細胞群の遺伝子発現解析	鈴木敏夫	呼吸器内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患スクリーニングのための、依存症としての骨粗鬆症を含むバイオマーカー探索研究	巽浩一郎	呼吸器内科	1,500,000	(補委)	ちば県民保健予防財団
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	照井慶太(分担)	小児外科	100,000	(補委)	厚生労働省

小計30

ヒトCD133陽性神経芽腫幹細胞を標的とした新規治療法の開発	吉田英生	小児外科	900,000	補委	文部科学省
胆道閉鎖症における制御性T細胞のsubpopulation解析	齋藤 武	小児外科	1,300,000	補委	文部科学省
次世シーケンサーを用いた慢性特発性偽性腸閉塞症の原因遺伝子探索	照井慶太	小児外科	2,500,000	補委	文部科学省
機能的消化管障害および炎症性腸疾患モデルマウスを用いた腸管神経の役割の解析	小原由紀子	小児外科	1,300,000	補委	文部科学省
網羅的ゲノム・エピゲノム解析による神経芽腫再発・治療抵抗性獲得のメカニズムの解明	吉田英生(分担)	小児外科	100,000	補委	文部科学省
軸索興奮性測定・脳機能画像を用いた神経障害性疼痛の客観的総合評価システムの確立	桑原 聡	神経内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
タウオパチーにおけるタウ蛋白と脳機能の神経画像基盤研究	平野成樹	神経内科	800,000	補委	日本学術振興会
視床下核脳深部刺激療法の高位排尿中枢への作用メカニズムの解明	山本達也	神経内科	500,000	補委	日本学術振興会
抗talin自己抗体を標的とした多発性硬化症の新規治療戦略	森 雅裕	神経内科	1,800,000	補委	日本学術振興会
クロー・深瀬症候群の病期・重症度分類の確立と重症化に関する病態研究	三澤園子	神経内科	900,000	補委	日本学術振興会
中枢神経炎症性脱髄疾患におけるベルオキシレドキシンを標的とした革新的治療法開発	鶴沢潤之	神経内科	900,000	補委	日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症の神経興奮性に着目した革新的治療法開発	澁谷和幹	神経内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類・治療アルゴリズムの確立	桑原 聡	神経内科	700,000	補委	厚生労働省
運動失調班の医療基盤に関する調査研究	桑原 聡	神経内科	900,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	桑原 聡	神経内科	450,000	補委	厚生労働省
子宮頸がんワクチン接種後に生じた症状に関する治療法の確立と情報提供についての研究	桑原 聡	神経内科	500,000	補委	厚生労働省
スモンに関する調査研究班	山中義和	神経内科	1,000,000	補委	厚生労働省
神経疾患における免疫病態の解明と治療法開発に関する研究	桑原 聡	神経内科	700,000	補委	厚生労働省
Crow-Fukase症候群に対するサリドマイドの有効性を検討するためのプラセボ対照二重盲検	桑原 聡	神経内科	3,082,731	補委	日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究【サリドマイド】	桑原 聡	神経内科	800,000	補委	日本医療研究開発機構
ギラン・バレー症候群に対するエクシマブの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験	桑原 聡	神経内科	60,500,000	補委	日本医療研究開発機構
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	桑原 聡	神経内科	300,000	補委	日本医療研究開発機構
抗Neurofascin155抗体関連中枢・末梢神経障害症候群(CCPD/CIDP)の診療ガイドライン作成のための定量的抗体測定法の開発と基盤エビデンスの構築	桑原 聡	神経内科	700,000	補委	日本医療研究開発機構
視神経脊髄炎の再発に対するリツキシマブの有用性を検証する第II/III相 多施設共同プラセボ対照無作為化試験	森 雅裕	神経内科	500,000	補委	日本医療研究開発機構
重度嗅覚障害を呈するパーキンソン病を対象としたドネペジルの予後改善効果に関する研究	山本達也	神経内科	600,000	補委	日本医療研究開発機構
早く正しい救急医療実現のためのスマートな患者情報収集・処理・共有システムの開発	中田孝明	救急科・集中治療部	23,863,200	補委	日本医療研究開発機構
網羅的exome解析による敗血症関連遺伝子の探索と個別化医療への展開	中田孝明	救急科・集中治療部	7,700,000	補委	日本学術振興会
網羅的解析による急性腸間膜虚血の早期診断法の開発	中田孝明	救急科・集中治療部	1,500,000	補委	日本学術振興会
集中治療患者の貧血に対するエリスロポエチン製剤投与の可能性	織田成人	救急科・集中治療部	2,000,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた過大侵襲下におけるdysbiosisの病態解明	高橋和香	救急科・集中治療部	1,300,000	補委	日本学術振興会

重症患者におけるメロペネムの薬物動態の解明	服部憲幸	救急科・集中治療部	1,000,000	補委	日本学術振興会
血管透過性亢進モデルマウスを用いた血管透過性亢進の抑制方法の検討	島居 傑	救急科・集中治療部	1,000,000	補委	日本学術振興会
結核の診断及び治療の強化等に関する革新的な手法の開発に関する研究	猪狩 英俊	感染症内科	500,000	補委	結核研究所
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	猪狩 英俊	感染症内科	538,462	補委	日本医療研究開発機構
医療現場における対応困難事例の調査及び医療者教育法の開発～患者中心の医療のために	生坂政臣	総合診療科	40,300,000	補委	日本学術振興会
フリーソフトを用いたe-ポートフォリオ導入とその教育支援効果および評価ツールとしての有用性に関する研究	鋪野紀好	総合診療科	4,000,000	補委	日本プライマリ・ケア連合学会
超高齢社会とグローバル化に対応する次世代型医療人育成プロジェクト-医業看における反転授業を用いたアクティブ・ラーニングの実践-	生坂政臣	総合診療科	1,862,000	補委	文部科学省
日常生活が含まれた患者再現videoを利用したPBLの多方面からのアプローチへの有用性に関する研究	池上亜希子	総合診療科	5,000	補委	文部科学省
オンラインツールを用いた教材は身体診察スキルを向上させるか? -日本語版身体診察動画教材の作成-	鋪野紀好	総合診療科	10,000,000	補委	文部科学省
肝発癌における自然免疫関与の解析	神田 達郎	消化器内科	4,615,385	補委	日本医療研究開発機構
A型肝炎の重症化機序解明と治療薬に関する検討	神田 達郎	消化器内科	1,500,000	補委	日本医療研究開発機構
HBs抗原陰性化に関与する因子の臨床的・ウイルス学的検討	神田 達郎	消化器内科	1,200,000	補委	日本医療研究開発機構
HBVの持続感染等	神田 達郎	消化器内科	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
Investigate the gain of immune function after hepatitis C virus eradication from patients	神田 達郎	消化器内科	1,707,693	補委	日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスRNAと相互作用する宿主因子の網羅的同定による肝癌発生の制御法開発	千葉 哲博	消化器内科	5,384,616	補委	日本医療研究開発機構
非アルコール性脂肪肝炎の診断と発癌リスク分析に向けた脂肪酸音響マッピングの創成	丸山 紀史	消化器内科	500,000	補委	文部科学省
肝細胞癌におけるクロマチンリモデリング因子ARID遺伝子群の機能喪失の意義	千葉 哲博	消化器内科	1,400,000	補委	文部科学省
次世代シーケンサーによるMRD検出法に基づくPOEMS症候群の治療戦略の確立	堺田恵美子	血液内科	1,000,000	補委	厚生労働省
Smad3ノックアウトマウスを用いた骨髄線維症発症機構の解析	武内正博	血液内科	1,100,000	補委	厚生労働省
チロシンキナーゼ阻害薬による慢性骨髄性白血病の治療を目指した研究	中世古 知昭	血液内科	4,384,616	補委	日本医療研究開発機構
骨髄微小環境と形質細胞の相互作用に基づいたPOEMS	中世古 知昭	血液内科	1,200,000	補委	厚生労働省
「気道上皮-免疫バリア」という観点からの喘息の病態解明	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	4,600,000	補委	文部科学省
濾胞ヘルパーT細胞の分化及び関節リウマチ発症におけるBCL-3の役割の解明	鈴木 浩太郎	アレルギー・膠原病内科	110,000	補委	文部科学省
アレルギー性気道炎症下のバリア機能維持におけるTcf21の役割の解明	前澤 裕子	アレルギー・膠原病内科	1,600,000	補委	文部科学省
難治性血管炎に関する調査研究班	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	250,000	補委	厚生労働省
iTR35細胞の分化機構及び関節リウマチにおける役割の解明	目黒 和行	アレルギー・膠原病内科	1,700,000	補委	文部科学省
我が国の関節リウマチ診療標準化のための研究	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	200,000	補委	厚生労働省
【萌芽】IgE⇒IgAクラススイッチ誘導によるアレルギー疾患治療法の開発	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	1,300,000	補委	文部科学省
関節リウマチの治療応答性遺伝子の網羅的解析に基づく疾患活動性指標確立と治療法開発	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	1,100,000	補委	文部科学省
細胞内亜鉛制御による関節リウマチの新規治療戦略の確立	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	110,000	補委	文部科学省

小計30

アレルギー性気道炎症におけるFOXP3陽性制御性自然免疫細胞の役割の解明	高取 宏昌	アレルギー・膠原病内科	600,000	補委	文部科学省
早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	9,694,000	補委	厚生労働省
早老症ウェルナー症候群の全国調査と症例登録システムの構築によるエビデンスの創生	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	7,600,000	補委	日本医療研究開発機構
LCAT遺伝子導入に増殖型脂肪細胞を用いた遺伝子治療	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	14,430,000	補委	日本医療研究開発機構
遺伝子治療用脂肪細胞の調整に関する研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	9,694,000	補委	セルジェンテック
「抗菌活性・創修復作用を有する新規ペプチドを用いた遺伝的早老症患者の難治性潰瘍治療薬の開発	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	5,300,000	補委	日本医療研究開発機構
糖尿病の標準的治療の開発と均てん化に関する研究	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	910,000	補委	日本医療研究開発機構
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	補委	日本医療研究開発機構
原発性高脂血症に関する調査研究	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	200,000	補委	厚生労働省
老化遺伝子の統合的解析による加齢関連疾患の病態解明	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	3,700,000	補委	日本学術振興会
高齢者ケアの継続・連携に関する質指標開発とシステム構築	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	300,000	補委	日本学術振興会
高齢者造血管腫瘍の発症基盤としてのステムセルエイジングの解明	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	8,000,000	補委	日本学術振興会
フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証	横手 幸太郎 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	補委	厚生労働省
サルコペニアの治療戦略開発にむけた新規筋衛生細胞発現遺伝子R3hdm1の機能解析	竹本 稔	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
セマリフォン3gによる膵α細胞の恒常性維持機構解明と乏尿治療への応用	河村治清	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
ボドサイトの転写因子Tcf21の機能解析を通じた慢性腎臓病の機序解明	前澤善朗	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
Sema3Gの機能解析を通じた非アルコール性脂肪性肝炎の機序解明	徳山宏丈	糖尿病・代謝・内分泌内科	3,700,000	補委	日本学術振興会
R3hdm1を用いたボドサイト特異的TGF-β抑制機構の解明と治療応用の検討	石川崇広	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
CXCL12-CXCR4経路を介した新規褐色脂肪活性化メカニズムの解明	石川 耕	糖尿病・代謝・内分泌内科	3,700,000	補委	日本学術振興会
p53依存性のグルタミン代謝調節分子GLS2によるNASH-HCC病態制御の役割	田中智明	糖尿病・代謝・内分泌内科	800,000	補委	日本学術振興会
細胞老化が引き起こす恒常性破綻の病態解明とその制御	田中知明	糖尿病・代謝・内分泌内科	10,000,000	補委	日本医療研究開発機構
AKAP13を用い骨代謝の新たな制御機構の解明	小出尚史	糖尿病・代謝・内分泌内科	600,000	補委	日本学術振興会
肥満・糖尿病と発癌を結びつけるグルタミン代謝ネットワークの基盤的研究	鈴木佐和子	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
グルタミン代謝を介した肥満-NASH/HCC制御機構とその臨床応用(国際共同研究強化)	鈴木佐和子	糖尿病・代謝・内分泌内科	9,600,000	補委	日本学術振興会
重症心不全に対する外科的心負荷軽減による機能回復予測の包括的解析	松宮 護郎	心臓血管外科学	4,500,000	補委	日本学術振興会
インターロイキン-11の臨床外科領域への応用—大動物モデルによる前臨床試験—	黄野 皓木	心臓血管外科	2,501,201	補委	日本学術振興会
食道癌ゲノムおよびエピジェネティクス制御解析による分子治療開発	松原 久裕	食道・胃腸外科/ 外科	3,640,000	補委	日本学術振興会
エクソソーム機能解析に基づく食道扁平上皮癌転移診断マーカーの探索	村上 健太郎	食道・胃腸外科/ 外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
PD-1阻害免疫賦活剤ナノ粒子と電磁加温を用いた食道癌に対する樹状細胞療法の開発	阿久津 泰典	食道・胃腸外科/ 外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
沈静下内視鏡的粘膜下層剥離術中のポリソムノグラフィーを用いた呼吸管理法の確立	上里 昌也	食道・胃腸外科/ 外科	1,950,000	補委	日本学術振興会

外科一般、消化器外科、癌治療分野にかかる学術研究動向に関する調査研究	松原 久裕	食道・胃腸外科/ 外科	先端応用	1,000,000	補委	日本学術振興会
国内完結型がんクリニカルシーケンスの社会実装と統合データベース構築およびゲノム医療人材育成に関する研究開発	松原 久裕	食道・胃腸外科/ 外科	先端応用	26,780,000	補委	日本医療研究開発機構
高感度・高特異性変改レクチン開発によるGAG鎖およびO-GlcNAc修飾を標的とした創薬探索技術の確立	松原 久裕	食道・胃腸外科/ 外科	先端応用	6,600,000	補委	日本医療研究開発機構
胆管癌癌源細胞誘導におけるYAP/TAZの役割と新規分子標的治療法の開発	大塚 将之	臓器制御外科学		1,500,000	補委	日本学術振興会
新しい膵消化管神経内分泌腫瘍分類法の確立とそれに基づいた個別化治療の開発	吉富 秀幸	臓器制御外科学		1,100,000	補委	日本学術振興会
高度侵襲手術に対する免疫栄養療法確立に向けた臨床試験	古川 勝規	臓器制御外科学		800,000	補委	日本学術振興会
肝胆膵領域癌での炎症性シグナルとしてのNF-kappaB活性と癌悪性度との関連性	久保木 知	臓器制御外科学		1,300,000	補委	日本学術振興会
EMT-MET plasticityによる膵胆道癌進展機序の解明と個別化治療応用	高野 重紹	臓器制御外科学		1,600,000	補委	日本学術振興会
AnnexinII-癌周囲環境の相互作用と分泌因子による浸潤転移メカニズムの解明	高野 重紹	臓器制御外科学		1,100,000	補委	日本学術振興会
転写因子KLFによる消化器癌浸潤、転移制御機構の解明と新規治療法の開発	酒井 望	臓器制御外科学		1,200,000	補委	日本学術振興会
Notch/Sox9シグナル阻害剤による膵癌の新規分子標的療法の開発	賀川 慎吾	臓器制御外科学		900,000	補委	日本学術振興会
Notch/Sox9シグナル阻害剤による膵癌の新規分子標的療法の開発	野島 広之	臓器制御外科学		1,500,000	補委	日本学術振興会
膵臓癌におけるSox9シグナル制御による抗癌剤耐性機構の解明	賀川 慎吾	臓器制御外科学		500,000	補委	(公財)日本膵臓病研究財団
多種の細胞外マトリックスの複合的な関与による乳癌の多様性の形成	榊原雅裕	乳腺・甲状腺外科		1,400,000	補委	日本学術振興会
網羅的遺伝子・蛋白質解析を用いて非浸潤性乳癌の新規悪性度マーカーを同定する研究	三階貴史	乳腺・甲状腺外科		4,810,000	補委	日本学術振興会
日本人の乳癌薬物治療における内臓型肥満とインスリン耐性、慢性炎症の影響	岩瀬俊明	乳腺・甲状腺外科		1,800,000	補委	日本学術振興会
家族性乳がんに対する遺伝子変異スクリーニング法の確立と臨床病理学的特徴の解明	長嶋 健	乳腺・甲状腺外科		300,000	補委	柏戸医学研究奨励金
質量分析計(LC-MS/MS)を用いた定量測定の実用化と基盤技術の構築	佐藤守 (代表者)	マススペクトロメリー 検査診断学		1,820,000	補委	文部科学省
質量分析計による病原微生物迅速同定法の構築・臨床応用	佐藤守 (分担者)	マススペクトロメリー 検査診断学		150,000	補委	文部科学省
T細胞性急性リンパ性白血病発症マウスのタンパク質解析による新規病態解明	佐藤守 (分担者)	マススペクトロメリー 検査診断学		100,000	補委	文部科学省
T細胞性急性リンパ性白血病発症マウスのタンパク質解析による新規病態解明	野村文夫 (分担者)	マススペクトロメリー検査診断学 遺伝子診療部		100,000	補委	文部科学省
モデフィコックスによる歯周疾患のバイオマーカー開発	土田祥央 (代表者)	マススペクトロメリー 検査診断学		1,560,000	補委	文部科学省
成人における未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	野村文夫 (分担者)	マススペクトロメリー検査診断学 遺伝子診療部		8,000,000	補委	日本医療研究開発機構
メタボリックにより見出された新しい大腸がんリスクマーカーGTA-446のがん検診における有用性に関する研究	佐藤守 (代表者)	マススペクトロメリー 検査診断学		1,200,000	補委	ちば県民保健予防財団
T細胞性急性リンパ性白血病の新規発症メカニズムの解明と診断・治療への応用	松下一之 (代表者)	検査部		1,560,000	補委	文部科学省
RalAとNY-ESO-1を標的とした食道癌血清抗体モニタリングに関する研究	松下一之 (分担者)	検査部		200,000	補委	文部科学省
T細胞性急性リンパ性白血病発症マウスのタンパク質解析による新規病態解明	松下一之 (分担者)	検査部		100,000	補委	文部科学省
日常臨床検査における異常反応の検出と対策	松下一之 (分担者)	検査部		100,000	補委	文部科学省
ゲノム医療の実装に資する臨床ゲノム情報統合データベースの整備と我が国の継続的なゲノム医療実施体制の構築	松下一之 (代表者)	検査部		2,000,000	補委	日本医療研究開発機構
がんゲノム個別化医療の実現に向けた遺伝子診断共通カリキュラム構築と教育・研修プログラムの実証的開発研究	松下一之 (代表者)	検査部		2,499,900	補委	日本医療研究開発機構

メディカル・ゲノムセンター等におけるゲノム医療実施体制の構築と人材育成に関する研究	松下一之 (代表者)	検査部	5,200,000	補 委	日本医療研究開発機構
難病克服！次世代スーパードクターの育成(NGSD)	松下一之 (代表者)	検査部	4,800,000	補 委	文部科学省
Immuno-MS(質量分析)の臨床検査応用に向けた免疫複合体	西村 基 (代表者)	検査部	1,040,000	補 委	文部科学省
治療法のある遺伝性疾患に対する遺伝学的検査と遺伝カウンセリングネットワークの構築	松下一之 (代表者)	検査部	200,000	補 委	ちば県民保健予防財団
質量分析による血清ビタミンD代謝の包括的評価	石毛崇之 (代表者)	検査部	1,300,000	補 委	文部科学省
質量分析計による病原微生物迅速同定法の構築・臨床応用	石毛崇之 (分担者)	検査部	150,000	補 委	文部科学省
プロテオーム解析を用いた食道扁平上皮癌の化学療法感受性マーカーの探索	風見 隆浩 (代表者)	検査部	1,842,776	補 委	文部科学省
「上皮間葉移行(EMT)修飾による肺癌化学療法・分子標的治療抵抗性の克服(研究課題番号 26461182)」	滝口裕一	腫瘍内科	4,940,000	補 委	日本学術振興会
「非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペムトレキセドを用いた術後補助化学療法」	研究分担者 滝口裕一	腫瘍内科	100,000	補 委	日本医療研究開発機構
非小細胞肺癌に対するNKT細胞を用いた免疫細胞治療の開発研究	本橋新一郎	未来開拓センター	40,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
髄液移行性を考慮した細菌性髄膜炎に対するバンコマイシン投与設計法の確立	石川雅之	薬剤部	570,000	補 委	日本学術振興会
小児莓状血管腫におけるプロプラノロールゲルの製剤学的検討とその有用性	吉澤なぎ	薬剤部	570,001	補 委	日本学術振興会
せん妄発症の要因となる薬剤に関する調査	須藤知子	薬剤部	570,002	補 委	日本学術振興会
重症敗血症患者におけるカルバペネム系抗菌薬の投与設計法の構築	新部陽子	薬剤部	450,000	補 委	日本学術振興会
Alb、Ccrを指標としたオキサリプラチンの副作用予測に関する探索的研究	山本晃平	薬剤部	480,000	補 委	日本学術振興会
医療費削減に向けた褥瘡悪化因子の抽出とその評価	新井健一	薬剤部	400,000	補 委	日本学術振興会
腎機能に応じたガンシクロビルの副作用発現に関する調査と適切な投与設計への応用	宮本仁	薬剤部	300,000	補 委	日本学術振興会
多臓器不全患者に対するマロトフィア感染症治療薬の投与設計方法の確立	鈴木達也	薬剤部	570,000	補 委	日本学術振興会
授乳時期によるラモトリギンの乳汁移行変動と乳児への影響	土屋晃三	薬剤部	570,000	補 委	日本学術振興会
アルブミン使用量減少を目指した血漿代用剤の使用促進に関する研究	鈴木貴明	薬剤部	430,000	補 委	日本学術振興会
エピジェネティクスから迫る多発性骨髄腫の発症機構の解明と薬剤耐性化の克服	三村尚也	輸血・細胞療法部	1,500,000	補 委	日本学術振興会
ポリコームヒストン修飾を標的とした新規エピジェネティック治療法の開発	岩間厚志(代表)、 三村尚也(分担)	輸血・細胞療法部	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
「新治療法開発のための医薬品・医療機器・再生医療等製品創造と科学の双翼プロジェクト」	花岡英紀	臨床試験部	160,000,000	補 委	厚生労働省

小計23

計263

(注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nakagomi A, Okada S, Funabashi N, et al.	循環器内科	Age-related change in contribution of stroke volume to central pulse pressure.	Clin Exp Hypertens. 2017;39(3):284-289.	Original Article
2	Kanda M, Nagai T.	循環器内科	Neonatal Rat Heart Response to Pressure Overload.	Int Heart J. 2017 Apr 6;58(2):155-157.	Others
3	Kato K, Daimon M, Ishibashi I, et al.	循環器内科	Myocardial Edema in Takotsubo Syndrome - Serial Cardiovascular Magnetic Resonance Imaging of the Natural Course.	Circ J. 2017 Mar 25. doi: 10.1253/circj.CJ-17-0065.	Case report
4	Kondo Y, Ueda M, Winter J, et al.	循環器内科	Successful intermuscular implantation of subcutaneous implantable cardioverter defibrillator in a Japanese patient with pectus excavatum.	J Arrhythm. 2017 Feb;33(1):63-65.	Case report
5	Nagamine A, Hasegawa H, Hashimoto N, et al.	循環器内科	The effects of DPP-4 inhibitor on hypoxia-induced apoptosis in human umbilical vein endothelial cells.	J Pharmacol Sci. 2017 Jan;133(1):42-48.	Original Article
6	Saito Y, Kitahara H, Nakayama T, et al.	循環器内科	Night-time blood pressure variability negatively correlated with reactive hyperemia index.	Int J Cardiol. 2017 Mar 1;230:332-334.	Letter
7	Saito Y, Kitahara H, Shoji T, et al.	循環器内科	Paroxysmal atrial fibrillation during intracoronary acetylcholine provocation test.	Heart Vessels. 2017 Jul;32(7):902-908.	Original Article
8	Ozawa K, Funabashi N, Takaoka H, et al.	循環器内科	Successful MACE risk stratification in hypertrophic cardiomyopathy patients using different 2D speckle-tracking TTE approaches.	Int J Cardiol. 2017 Feb 1;228:1015-1021.	Original Article
9	Saito Y, Kitahara H, Nakayama T, et al.	循環器内科	Diagnostic accuracy of intraluminal blood speckle intensity on intravascular ultrasound for physiological assessment of coronary artery stenosis.	Coron Artery Dis. 2017 Mar;28(2):145-150.	Original Article
10	Takaoka H, Funabashi N, Ozawa K, et al.	循環器内科	Computed tomography is important in appropriately diagnosing patients with third-degree atrioventricular block and second-degree atrioventricular block but not Wenckebach type.	Int J Cardiol. 2017 Feb 1;228:700-706.	Original Article
11	Ozawa K, Funabashi N, Kamata T, et al.	循環器内科	Inter- and intraobserver consistency in LV myocardial strain measurement using a novel multi-layer technique in patients with severe aortic stenosis and preserved LV ejection fraction.	Int J Cardiol. 2017 Feb 1;228:687-693.	Original Article
12	Saito Y, Kitahara H, Shoji T, et al.	循環器内科	Feasibility of omitting provocation test with 50 μg of acetylcholine in left coronary artery.	Heart Vessels. 2017 Jun;32(6):685-689.	Original Article
13	Nishi T, Kitahara H, Fujimoto Y, et al.	循環器内科	Efficacy of intravenous nicorandil for fractional flow reserve assessment: study protocol for a crossover randomised trial.	BMJ Open. 2016 Nov 21;6(11):e012737.	Original Article
14	Takaoka H, Funabashi N, Uehara M, et al.	循環器内科	Diagnostic accuracy of CT for the detection of left ventricular myocardial fibrosis in various myocardial diseases.	Int J Cardiol. 2017 Feb 1;228:375-379.	Original Article
15	Ozawa K, Funabashi N, Takaoka H, et al.	循環器内科	Detection of right ventricular myocardial fibrosis using quantitative CT attenuation of the right ventricular myocardium in the late phase on 320-slice CT in subjects with pulmonary hypertension.	Int J Cardiol. 2017 Feb 1;228:165-168.	Original Article
16	Fujimoto Y, Kobayashi Y, Kato K, et al.	循環器内科	Delamination of novel ultrathin bioabsorbable abumin polymer of platinum chromium everolimus-eluting stent.	Cardiovasc Interv Ther. 2016 Nov 15. DOI:10.1007/s12928-016-0442-9	Original Article
17	Kadohira T, Kobayashi Y.	循環器内科	Intravascular ultrasound-guided drug-eluting stent implantation.	Cardiovasc Interv Ther. 2017 Jan;32(1):1-11.	Original Article
18	Kato K, Funabashi N, Takaoka H, et al.	循環器内科	Lactobacillus paracasei endocarditis in a consumer of probiotics with advanced and severe bicuspid aortic valve stenosis complicated with diffuse left ventricular mid-layer fibrosis.	Int J Cardiol. 2016 Dec 1;224:157-161.	Case report
19	Ishihara A, Funabashi N, Ozawa K, et al.	循環器内科	The use of whole thoracic ECG-gated MDCT for the de novo diagnosis of isolated patent ductus arteriosus in middle aged or older subjects.	Int J Cardiol. 2016 Dec 1;224:62-64.	Letter
20	Takaoka H, Funabashi N, Uehara M, et al.	循環器内科	Respiratory function in candidates for cardiac 320-slice CT: Relationship between coronary arterial findings, left ventricular size, and ventricular function, with emphysema, FEV1.0, %VC, and prognosis.	Int J Cardiol. 2016 Dec 1;224:4-7.	Letter
21	Shoji T, Nakagomi A, Okada S, et al.	循環器内科	Invasive validation of a novel brachial cuff-based oscillometric device (SphygmoCor XCEL) for measuring central blood pressure.	J Hypertens. 2017 Jan;35(1):69-75.	Original Article
22	Nakagomi A, Okada S, Shoji T, et al.	循環器内科	Comparison of invasive and brachial cuff-based noninvasive measurements for the assessment of blood pressure amplification.	Hypertens Res. 2017 Mar;40(3):237-242.	Original Article
23	Nakagomi A, Okada S, Shoji T, et al.	循環器内科	Crucial Effect of Calibration Methods on the Association Between Central Pulsatile Indices and Coronary Atherosclerosis.	Am J Hypertens. 2017 Jan;30(1):24-27.	Original Article
24	Saito Y, Okada S, Funabashi N, et al.	循環器内科	ANCA-negative eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (EGPA) manifesting as a large intracardiac thrombus and glomerulonephritis with angioneurosis.	BMJ Case Rep. 2016 Sep 2;2016. pii: bcr2016216520.	Case report
25	Ozawa K, Funabashi N, Bujo H, et al.	循環器内科	Fair prognosis in heterotypic familial hypercholesterolemia subjects with statin use even with severe coronary calcification and radiation exposure from CT: A median 88.5-month follow-up study.	Int J Cardiol. 2016 Nov 15;223:827-828.	Letter
26	Nishi T, Ariyoshi N, Nakayama T, et al.	循環器内科	Impact of chronic kidney disease on platelet inhibition of clopidogrel and prasugrel in Japanese patients.	J Cardiol. 2017 May;69(5):752-755.	Original Article
27	Ozawa K, Funabashi N, Takaoka H, et al.	循環器内科	Detection of right ventricle wall motion asynergy in pulmonary hypertension subjects without left-sided heart disease.	Int J Cardiol. 2016 Nov 1;222:375-8.	Letter
28	Senoo K, Kondo Y, Miyazawa K, et al.	循環器内科	Safety and efficacy of direct oral anticoagulants over warfarin in Japanese patients with acute venous thromboembolism: A meta-analysis.	J Cardiol. 2017 May;69(5):763-768.	Others
29	Kato K, Kobayashi Y.	循環器内科	Documentation of Focal Takotsubo Syndrome and Its Diagnostic Implications - Reply.	Circ J. 2016 Aug 25;80(9):2059. doi: 10.1253/circj.CJ-16-0655.	Letter
30	Ozawa K, Funabashi N, Nishi T, et al.	循環器内科	Determination of best post-systolic shortening parameters on resting TTE for detection of left ventricular ischemic segments quantitatively confirmed by invasive fractional flow reserve.	Int J Cardiol. 2016 Nov 1;222:27-30.	Letter

31	Ozawa K, Funabashi N, Kobayashi Y.	循環器内科	Left ventricular myocardial strain gradient using a novel multi-layer transthoracic echocardiography technique positively correlates with severity of aortic stenosis.	Int J Cardiol. 2016 Oct 15;221:218-26.	Letter
32	Ozawa K, Funabashi N, Nishi T, et al.	循環器内科	Novel three dimensional myocardial strain parameter thresholds on resting transthoracic echocardiography for detection of left ventricular ischemic segments determined by invasive fractional flow reserve.	Int J Cardiol. 2016 Oct 1;220:871-5.	Letter
33	Kubota A, Hasegawa H, Tadokoro H, et al.	循環器内科	Deletion of CD28 Co-stimulatory Signals Exacerbates Left Ventricular Remodeling and Increases Cardiac Rupture After Myocardial Infarction.	Circ J. 2016 Aug 25;80(9):1971-9.	Original Article
34	Takaoka H, Funabashi N, Ueda M, et al.	循環器内科	Diagnostic comparison of cardiac magnetic resonance with endomyocardial biopsy in patients with dilated cardiomyopathy: A segment-by-segment analysis.	Int J Cardiol. 2016 Oct 1;220:739-41.	Letter
35	Ozawa K, Funabashi N, Sugiura A, et al.	循環器内科	Layer specific strain measurement and its relationship to heart failure indicators in systemic autoimmune disorder patients: A multi-layer transthoracic echocardiography study.	Int J Cardiol. 2016 Oct 1;220:693-9.	Letter
36	Sugiura A, Funabashi N, Ozawa K, et al.	循環器内科	Left ventricular diastolic dysfunction and increased left ventricular mass index related to pulmonary hypertension in patients with systemic autoimmune disease without pericardial effusion.	Int J Cardiol. 2016 Oct 1;220:268-72.	Original Article
37	Nishi T, Hasegawa A, Miyahara H, et al.	循環器内科	In-stent accordion phenomenon.	Int J Cardiol. 2016 Oct 1;220:129-30.	Letter
38	Saito Y, Kitahara H, Shoji T, et al.	循環器内科	Intracoronary Acetylcholine Provocation Testing - Omission of the 20- μ g Dose Is Feasible in Patients Without Coronary Artery Spasm in the Other Coronary Artery.	Circ J. 2016 Jul 25;80(8):1820-3.	Original Article
39	Ozawa K, Funabashi N, Nishi T, et al.	循環器内科	Differentiation of infarcted, ischemic, and non-ischemic LV myocardium using post-systolic strain index assessed by resting two-dimensional speckle tracking transthoracic echocardiography.	Int J Cardiol. 2016 Sep 15;219:308-11.	Letter
40	Saito Y, Kitahara H, Shoji T, et al.	循環器内科	Predictive value of coronary artery dilation response to nitrate for a positive intracoronary acetylcholine provocation test.	Coron Artery Dis. 2016 Nov;27(7):551-5.	Original Article
41	Kato K, Kitahara H, Fujimoto Y, et al.	循環器内科	Prevalence and Clinical Features of Focal Takotsubo Cardiomyopathy.	Circ J. 2016 Jul 25;80(8):1824-9.	Original Article
42	Nishi T, Kitahara H, Fujimoto Y, et al.	循環器内科	Comparison of 3-dimensional and 2-dimensional quantitative coronary angiography and intravascular ultrasound for functional assessment of coronary lesions.	J Cardiol. 2017 Jan;69(1):280-286.	Original Article
43	Nishi T, Funabashi N, Ozawa K, et al.	循環器内科	Resting multilayer 2D speckle-tracking transthoracic echocardiography for the detection of clinically bland myocardial ischemic segments confirmed by invasive fractional flow reserve. Part 1: Vessel-by-vessel analysis.	Int J Cardiol. 2016 Sep 1;218:324-32.	Original Article
44	Kanda M, Nagai T, Takahashi T, et al.	循環器内科	Leukemia Inhibitory Factor Enhances Endogenous Cardiomyocyte Regeneration after Myocardial Infarction.	PLoS One. 2016 May 26;11(5):e0156562.	Original Article
45	Ozawa K, Funabashi N, Nishi T, et al.	循環器内科	Resting multilayer 2D speckle-tracking TTE for detection of ischemic segments confirmed by invasive FFR part-2, using post-systolic-strain-index and time from aortic-valve-closure to regional peak longitudinal-strain.	Int J Cardiol. 2016 Aug 15;217:149-55.	Original Article
46	Nakagomi A, Okada S, Shoji T, et al.	循環器内科	Aortic pulsatility assessed by an oscillometric method is associated with coronary atherosclerosis in elderly people.	Blood Press. 2016 Dec;25(6):373-380.	Original Article
47	Saito Y, Takaoka H, Funabashi N, et al.	循環器内科	A case of very severe aortic stenosis due to unicuspid aortic valve mimicking bicuspid aortic valve with calcification on cardiac computed tomography.	Int J Cardiol. 2016 Jul 15;215:516-8.	Case report
48	Sugiura A, Funabashi N, Ozawa K, et al.	循環器内科	Immunological and inflammatory processes in systemic autoimmune disease may not only cause pericardium inflammation, but may also cause mitral valve deterioration and left ventricular wall thickening.	Int J Cardiol. 2016 Jul 15;215:466-71.	Original Article
49	Ozawa K, Funabashi N, Tanabe N, et al.	循環器内科	Contribution of myocardial layers of right ventricular free wall to right ventricular function in pulmonary hypertension: Analysis using multilayer longitudinal strain by two-dimensional speckle-tracking echocardiography.	Int J Cardiol. 2016 Jul 15;215:457-62.	Case report
50	Sugiura A, Nakayama T, Takahara M, et al.	循環器内科	Combined use of ECMO and hemodialysis in the case of contrast-induced biphasic anaphylactic shock.	Am J Emerg Med. 2016 Sep;34(9):1919.e1-2.	Case report
51	Nishi T, Takaoka H, Funabashi N, et al.	循環器内科	Familial lamin A/C mutation cardiomyopathy with arrhythmia substrate detected by cardiac magnetic resonance imaging and electroanatomical mapping.	Int J Cardiol. 2016 Apr 15;209:248-52.	Letter
52	Ono R, Funabashi N, Takaoka H, et al.	循環器内科	Massive myocardial aneurysm due to inferior to posterior myocardial infarction complicated with right-sided heart failure in a 36-year-old male.	Int J Cardiol. 2016 Apr 15;209:98-102.	Letter
53	Nishi T, Kitahara H, Iwata Y, et al.	循環器内科	Efficacy of combined administration of intracoronary papaverine plus intravenous adenosine 5'-triphosphate in assessment of fractional flow reserve.	J Cardiol. 2016 Dec;68(6):512-516.	Original Article
54	Inage K, Orita S, Yamauchi K, 他	整形外科	Low-Dose Tramadol and Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drug Combination Therapy Prevents the Transition to Chronic Low Back Pain.	Asian Spine J. 2016 Aug;10(4):685-9.	Original Article
55	Inage K, Orita S, Yamauchi K, 他	整形外科	Dose Optimization for Single Intradiscal Administration of the Tumor Necrosis Factor- α Inhibitor, Etanercept, in Rat Disc Injury Models.	Asian Spine J. 2016 Aug;10(4):619-23.	Original Article
56	Matsuura Y, Thoreson AR, Zhao C An KN	整形外科	Development of a hyperelastic material model of subsynovial connective tissue using finite element modeling.	J Biomech. 2016 Jan 4;49(1):119-122.	Original Article
57	Orita S, Inage K, Kubota G, 他	整形外科	One-Year Prospective Evaluation of the Technique of Percutaneous Cortical Bone Trajectory Spondylolysis in Comparison with Percutaneous Pedicle Screw Fixation: A Preliminary Report with Technical Note	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2016 Nov;77(6):531-537.	Original Article
58	Orita S, Yamashita T, Ohtori S, 他	整形外科	Pregabalin for Refractory Radicular Leg Pain due to Lumbar Spinal Stenosis: A Preliminary Prospective Study	Pain Res Manag. 2016;2016:5079675. doi: 10.1155/2016/5079675. Epub 2016 Mar 29.	Original Article
59	Orita S, Yamashita T, Ohtori S, 他	整形外科	Prevalence and Location of Neuropathic Pain in Lumbar Spinal Disorders: Analysis of 1804 Consecutive Patients With Primary Lower Back Pain	Spine (Phila Pa 1976). 2016 Aug 1;41(15):1224-31.	Original Article
60	Hashimoto E, Ochiai N, Kenmoku T, 他	整形外科	Macroscopic and histologic evaluation of a rat model of chronic rotator cuff tear.	J Shoulder Elbow Surg. 2016 Dec;25(12):2025-2033.	Original Article

61	Ohtori S, Orita S, Yamauchi K, 他	整形外科	Do physical symptoms predict the outcome of surgical fusion in patients with discogenic low back pain?	Asian Spine J. 2016 Jun;10(3):509-15.	Original Article
62	Ohtori S, Orita S, Yamauchi K,他	整形外科	Classification of chronic back muscle degeneration after spinal surgery and its relationship with low back pain	Asian Spine J. 2016 Jun;10(3):516-21.	Original Article
63	Shiga Y, Orita S, Kubota G, 他	整形外科	Freeze-Dried Platelet-Rich Plasma Accelerates Bone Union with Adequate Rigidity in Posterolateral Lumbar Fusion Surgery Model in Rats	Sci Rep. 2016 Nov 11;6:36715. doi: 10.1038/srep36715.	Original Article
64	Matsuoka A, Tate S, Nishikimi K, et al.	婦人科	Elevated serum progesterone levels in postmenopausal women with mucinous ovarian tumors.	Menopause. 2016 May; 23(5):544-9	Original Article
65	Usui H, Kiyokawa T, Nishikimi K, et al.	婦人科	Comparison Between Pathological Diagnosis and Cytogenetic Diagnosis by Short Tandem Repeat Polymorphism Analysis of Suspected Molar Pregnancies	J Reprod Med. 2016 May-June; 61(5-6): 219-23	Original Article
66	Hanawa S, Mitsuhashi A, Matsuoka A, et al.	婦人科	Efficacy of palonosetron plus aprepitant in preventing chemoradiotherapy-induced nausea and emesis in patients receiving daily low-dose cisplatin-based concurrent chemoradiotherapy for uterine cervical cancer: a phase II study	Support Care Cancer. 2016 Nov; 24(11):4633-8	Original Article
67	Ishikawa H, Unno Y, Omoto A, et al.	婦人科	Local injection of diluted vasopressin followed by suction curettage for cervical ectopic pregnancy	Eur J of Obstet Gynecol Reprod Biol. 2016 Dec; 207:173-7	Original Article
68	Qu J, Usui H, Kaku H, et al.	婦人科	Presence of the methylenetetrahydrofolate reductase gene polymorphism MTHFR C677T in molar tissue but not maternal blood predicts failure of methotrexate treatment for low-risk gestational trophoblastic neoplasia.	Eur J Pharmacol. 2017 Jan 5; 794:85-91	Original Article
69	Kawarai Y, Ishikawa H, Segawa T, et al.	婦人科	High serum progesterone associated with infertility in a woman with nonclassic congenital adrenal hyperplasia.	J Obstet Gynaecol Res. 2017 Feb 11	Case report
70	Baba T, Kakisu M, Nizawa T et al.	眼科	SUPERFICIAL FOVEAL AVASCULAR ZONE DETERMINED BY OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY ANGIOGRAPHY BEFORE AND AFTER MACULAR HOLE SURGERY	Retina 2017; 37: 444-450 / 2017 Mar	Original Article
71	Bikbova G, Oshitari T, Baba Tet al.	眼科	Neuronal Changes in the Diabetic Cornea: Perspectives for Neuroprotection	BioMed Research International 2016; 2016: 5140823 / BioMed Research International 2016 Dec (オンライン)	Review
72	Akiba R, Yokouchi H, Mori M et al.	眼科	Retinal Morphology and Sensitivity Are Primarily Impaired in Eyes with Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder (NMOSD)	PLoS ONE 2016.Dec 9;11(12):e0167473 / Plos ONE 2016 Dec (オンライン)	Original Article
73	Hagiwara A, Baba T, Tatsumi T et al.	眼科	Functional and morphologic outcomes after reoperation for persistent idiopathic macular hole	Eur J Ophthalmol 2017; 27: 231-234 / 2017 Mar	Original Article
74	Yokouchi H, Baba T, Misawa S et al.	眼科	Changes in subfoveal choroidal thickness and reduction of serum levels of vascular endothelial growth factor in patients with POEMS syndrome	Br J Ophthalmol 2017; 101: 786-790 / 2017 Jun	Original Article
75	Baba T, Nizawa T, Oshitari T et al.	眼科	CORRELATIONS BETWEEN PREOPERATIVE RETINAL PIGMENT EPITHELIAL PROTRUSIONS AND POSTOPERATIVE OUTCOMES IN EYES WITH IDIOPATHIC MACULAR HOLES	Retina 2017; 37: 472-476 / 2017 Mar	Original Article
76	Baba T, Tanaka S, Nizawa T et al.	眼科	SCLERAL IMBRICATION COMBINED WITH PARS PLANA VITRECTOMY WITHOUT INTERNAL LIMITING MEMBRANE PEELING FOR MYOPIC	Retina 2016; 36: 1927-1934 / 2016 Oct	Original Article
77	Miura G, Nakamura Y, Sato E et al.	眼科	Effects of cataracts on flicker electroretinograms recorded with RETeval™ system: new mydriasis-free ERG device	BMC Ophthalmol. 2016 Mar 5;16:22 / BMC Ophthalmol 2016 Mar (オンライン)	Original Article
78	Goto Y, Kojima S, Kurozumi A, 他	泌尿器科	Regulation of E3 ubiquitin ligase-1 (WWP1) by microRNA-452 inhibits cancer cell migration and invasion in prostate cancer.	Br J Cancer 2016 May 10;114(10):1135-44	Original Article
79	Okato A, Goto Y, Kurozumi A, 他	泌尿器科	Direct regulation of LAMP1 by tumor-suppressive microRNA-320a in prostate cancer	Int J Oncol. 2016 Jul;49(1):111-22.	Original Article
80	Takei A, Sazuka T, Nakamura K,他	泌尿器科	Port-site transversus abdominis fascia closure reduced the incidence of incisional hernia following retroperitoneal laparoscopic nephrectomy.	Hernia. 2016 Oct;20(5):735-40	Original Article
81	Kato M, Kurozumi A, Goto Y, 他	泌尿器科	Regulation of metastasis-promoting LOXL2 gene expression by antitumor microRNAs in prostate cancer.	J Hum Genet 2017 Jan;62(1):123-132	Original Article
82	Goto Y, Kurozumi A, Nohata N, 他	泌尿器科	The microRNA signature of atients with sunitinib failure: regulation of UHRF1 pathways by microRNA-101 in renal cell carcinoma	Oncotarget 2016 Sep 13;7(37):59070-59086	Original Article
83	Namekawa T, Utsumi T, Tanaka T, 他	泌尿器科	Hypertension Cure Following Laparoscopic Adrenalectomy for Hyperaldosteronism is not Universal: Trends Over Two Decades	World J Surg 2017 Apr;41(4):986-990	Original Article
84	Okamoto Y,Fujieda S, Okano M, 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	House dust mite sublingual tablet is effective and safe in patients with allergic rhinitis.	Allergy. 2017 Mar;72(3):435-443.	Original Article
85	Suzuki T, Okamoto Y, Yonekura S,他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	"Characteristics of laryngeal symptoms induced in patients with allergic rhinitis in an environmental challenge chamber,"	Ann Allergy Asthma Immunol 2016 Jun;116(6):491-6.	Original Article
86	Koshizuka K, Hanazawa T, Fukumoto I,他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	The microRNA signatures: aberrantly expressed microRNAs in head and neck squamous cell carcinoma.	Journal of Human Genetics 2017 Jan;62(1):3-13.	Original Article
87	Koshizuka K, Hanazawa T, Fukumoto I, 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Dual-receptor (EGFR and c-MET) inhibition by tumor-suppressive miR-1 and miR-206 in head and neck squamous cell carcinoma.	Journal of Human Genetics 2017 Jan;62(1):113-121.	Original Article
88	Hanazawa T, Yonekura S, Nakamura H, 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Pre-operative effects of the administration of systemic corticosteroids combined with antibiotics on a lobular capillary hemangioma in the nasal cavity.	Auris Nasus Larynx. 2016 Apr;43(2):203-6.	Original Article
89	Fukumoto I,Koshizuka K, Hanazawa T,他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Tumor-suppressive microRNAs (miR-26a/b, miR-29a/b/c and miR-218) concertedly suppressed metastasis-promoting LOXL2 in head and neck squamous cell carcinoma.	Int J Oncol. 2016 Sep;49(3):1119-29.	Original Article
90	Sakurai D, Yonekura S, Iinuma T, 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Sublingual immunotherapy for allergic rhinitis: subjective versus objective tools to evaluate its success.	Rhinology. 2016 Sep;54(3):221-30.	Original Article

91	Horinaka A, Sakurai D, Ihara F,他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Invariant NKT cells are resistant to circulating CD15+ myeloid-derived suppressor cells in patients with head and neck cancer.	Cancer Sci. 2016 Mar;107(3):207-16.	Original Article
92	Shiohama T, Fujii K, Ebata R	小児科	Coronary ostium occlusion by coronary cusp displacement in Williams syndrome.	Pediatr Int 2016 Jun;58:487-90.	Case report
93	Shiohama T, Fujii K, Hino M	小児科	Coexistence of neuroblastoma and ganglioneuroma in a girl with a hemizygous deletion of chromosome 11q14.1-23.3.	Am J Med Genet 2016 May;170:492-7.	Case report
94	Shiohama T, Omata, T, Muta, K	小児科	Focal coxsackievirus B5 encephalitis with synchronously occurring clustered seizures and eruption.	Pediatr Int 2016 May;58:415-7.	Case report
95	Iwakura H, Fujii K, Furutani Y	小児科	Ellis-van Creveld syndrome associated with chronic intestinal pseudo-obstruction.	Pediatr Int 2016 Jan;360:57-60.	Case report
96	Iida Y, Fujii K, Mizuochi H	小児科	Rostral brain lesions of Leigh syndrome associated with the mitochondrial DNA 8993T>G mutation	J Neurol Sci 2016 Apr;363:77-9.	Case report
97	Iida Y, Fujii K	小児科	Significance of rostral brain lesions of Leigh syndrome associated with the mitochondrial DNA 8993T>G mutation	J Neurol Sci 2016 Jul;366:248.	Case report
98	Aoki T, Hino M, Koh K, Kyushiki M	小児科	Low Frequency of Programmed Death Ligand 1 Expression in Pediatric Cancers.	Pediatr Blood Cancer 2016 Aug;63(8): 1461-1464. doi:10.1002/pbc.26018.Epub 2016 May 2.	Original Article
99	Sasaki T, Hashimoto K, Oda Y他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Increased Serum Levels of Oxytocin in 'Treatment Resistant Depression in Adolescents (TRDIA)' Group.	PLoS One. 2016 Aug 18;11(8):e0160767. doi: 10.1371/journal.pone.0160767. eCollection 2016.	Original Article
100	Kimura H, Kanahara N, Sasaki T他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Risperidone long-acting injectable in the treatment of treatment-resistant schizophrenia with dopamine supersensitivity psychosis: Results of a 2-year prospective study, including an additional 1-year follow-up.	J Psychopharmacol. 2016 Aug;30(8):795-802. doi: 10.1177/0269881116655978. Epub 2016 Jul 1.	Original Article
101	Yoshinaga N, Matsuki S, Niitsu T他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Cognitive Behavioral Therapy for Patients with Social Anxiety Disorder Who Remain Symptomatic following Antidepressant Treatment: A Randomized, Assessor-Blinded, Controlled Trial.	Psychother Psychosom. 2016;85(4):208-17. doi: 10.1159/00044221. Epub 2016 May 27.	Original Article
102	Kimura H, Kanahara N, Takase M他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	A randomized, sham-controlled study of high frequency rTMS for auditory hallucination in schizophrenia.	Psychiatry Res. 2016 Jul 30;241:190-4. doi: 10.1016/j.psychres.2016.04.119. Epub 2016 May 6.	Original Article
103	Yamanaka H, Kanahara N, Suzuki T	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Reply to "concern over your recent paper on risperidone long-acting injectable for treatment-resistant schizophrenia"	Schizophr Res. 173(1-2) .118. 2016	Letter
104	Yamanaka H, Kanahara N, Suzuki T他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Impact of dopamine supersensitivity psychosis in treatment-resistant schizophrenia: An analysis of multi-factors predicting long-term prognosis.	Schizophr Res. 170(2-3). 252-8.	Original Article
105	Tachibana M, Niitsu T, Watanabe M他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Effectiveness of blonanserin for patients with drug treatment-resistant schizophrenia and dopamine supersensitivity: A retrospective analysis.	Asian Journal of Psychiatry. 2016 Dec; 24: 28-32.	Original Article
106	Seike K, Nakazato M, Hanazawa H他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	A questionnaire survey regarding the support needed by Yogo teachers to take care of students suspected of having eating disorders (second report).	BioPsychoSocial Medicine. 2016; 10:28	Original Article
107	Shiina A, Tomoto A, Omiya S他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Differences between British and Japanese perspectives on forensic mental health systems: A preliminary study.	World Journal of Psychiatry *2017 Mar 22; 7(1): 8-11. Published online 2017 Mar 22. doi:10.5498/wjp.v7.i1.8	Original Article
108	Takase M, Kanahara N, Oda Y他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	The impacts of dopamine D2 receptor polymorphism and antipsychotic dosage on dopamine supersensitivity psychosis in schizophrenia.	Schizophr Res. 2017 Mar 8. pii: S0920-9964(17)30136-6.	Original Article
109	Nakata Y, Kanahara N, Kimura H他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Efficacy of clozapine on dopamine supersensitivity psychosis in schizophrenia.	Int Clin Psychopharmacol. 2017 May;32(3):169-173.	Original Article
110	Matsumoto J, Hirano Y, Hashimoto K他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Altered serum level of matrix metalloproteinase-9 and its association with decision-making in eating disorders.	Psychiatry Clin Neurosci. 2017 Feb;71(2):124-134.	Original Article
111	Hashimoto T, Shiina A, Hasegawa T他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Effect of mirtazapine versus selective serotonin reuptake inhibitors on benzodiazepine use in patients with major depressive disorder: a pragmatic, multicenter, open-label, randomized, active-controlled, 24-week trial.	Ann Gen Psychiatry. 2016 Oct 19;15:27.	Original Article
112	Hirose M, Hirano Y, Nemoto K他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Relationship between symptom dimensions and brain morphology in obsessive-compulsive disorder.	Brain Imaging Behav. 2016 Oct 11.	Original Article
113	Seki Y, Nagata S, Shibuya T他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	A feasibility study of the clinical effectiveness and cost-effectiveness of individual cognitive behavioral therapy for panic disorder in a Japanese clinical setting: an uncontrolled pilot study.	BMC Res Notes. 2016 Oct 7;9(1):458.	Original Article
114	Yagi M, Hirano Y, Nakazato M	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Relationship between symptom dimensions and white matter alterations in obsessive-compulsive disorder.	Acta Neuropsychiatr. 2016 Sep 13:1-11.	Original Article
115	Tadokoro S, Nonomura N, Kanahara N他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Reduction of Severity of Recurrent Psychotic Episode by Sustained Treatment with Aripiprazole in a Schizophrenic Patient with Dopamine Supersensitivity: A Case Report.	Clin Psychopharmacol Neurosci. 2017 Feb 28;15(1):79-81.	Case report
116	Hashimoto K, Yoshida T, Ishikawa M他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	Increased serum levels of serine enantiomers in patients with depression.	Acta Neuropsychiatr. 2016 Jun;28(3):173-8.	Original Article
117	Seike K, Hanazawa H, Ohtani 他	精神神経科 ・こどものこころ診療部	A Questionnaire Survey of the Type of Support Required by Yogo Teachers to Effectively Manage Students Suspected of Having an Eating Disorder.	Biopsychosoc Med. 2016 May 9;10:15.	Original Article
118	Yuriko Toeda, Katsuhiko Uzawa, Yukio Yamano, 他	歯科・顎・口腔外科	Blue nevus of the hard palate: A case report	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 28 (2016) 406-409	Case report
119	Uzawa K, Kasamatsu A, Saito T, 他	歯科・顎・口腔外科	Long-term culture of human odontoma-derived cells with a Rho kinase inhibitor.	Exp Cell Res. 2016 Sep 10;347(1):232-40. doi: 10.1016/j.yexcr.2016.08.005. Epub 2016 Aug 8.	Original Article
120	Ishida S, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, 他	歯科・顎・口腔外科	Novel mechanism of aberrant ZIP4 expression with zinc supplementation in oral tumorigenesis	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2017 Jan 29;483(1):339-345.	Original Article

121	Koide N, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, 他	歯科・顎・口腔外科	Evidence for Critical Role of Lymphocyte Cytosolic Protein 1 in Oral Cancer.	Scientific Report. 2017 Feb 23;7:43379	Original Article
122	Takeuchi S, Kasamatsu A, Yamatoji M, 他	歯科・顎・口腔外科	TEAD4-YAP interaction regulates tumoral growth by controlling cell-cycle arrest at the G1 phase.	Biochem Biophys Res Commun. 2017 Mar 14. pii: S0006-291X(17)30504-1. doi: 10.1016/j.bbrc.2017.03.050. [Epub ahead of print]	Original Article
123	Takahara T, Kasamatsu A, Yamatoji M, 他	歯科・顎・口腔外科	SIPA1 promotes invasion and migration in human oral squamous cell carcinoma by ITGB1 and MMP7.	Exp Cell Res. 2017 Mar 15;352(2):357-363. doi: 10.1016/j.yexcr.2017.02.026. Epub 2017 Feb 22.	Original Article
124	Shiiba M, Yamagami H, Yamamoto A, 他	歯科・顎・口腔外科	Mefenamic acid enhances anticancer drug sensitivity via inhibition of aldo-keto reductase 1C enzyme activity.	Oncol Rep. 2017 Apr;37(4):2025-2032. doi: 10.3892/or.2017.5480. Epub 2017 Mar 1.	Original Article
125	Yoshimura S, Kasamatsu A, Nakashima D, 他	歯科・顎・口腔外科	UBE2S associated with OSCC proliferation by promotion of P21 degradation via the ubiquitin-proteasome system.	Biochem Biophys Res Commun. 2017 Apr 15;485(4):820-825. doi: 10.1016/j.bbrc.2017.02.138. Epub 2017 Feb 28.	Original Article
126	Sato S, Hasegawa M, Okuyama M, 他	麻酔・疼痛・緩和医療科	Mask Ventilation during Induction of General Anesthesia: Influences of Obstructive Sleep Apnea.	Anesthesiology. 2017 Jan;126(1):28-38.	Original Article
127	Isono S, Sandberg WS, Jiang Y.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Do you believe what you see or what you hear? Ultrasound versus stethoscope for perioperative clinicians.	Anesthesiology. 2016 May;124(5):989-91	Letter
128	Isono S, Sandberg WS, Jiang Y.	麻酔・疼痛・緩和医療科	In reply	Anesthesiology. 2016 Dec;125(6):1249-50	Letter
129	Yasuo Iwadate	脳神経外科	Epithelial-mesenchymal transition in glioblastoma progression.	Oncol Lett 11: 1615-1620, 2016	Original Article
130	Yasuo Iwadate	脳神経外科	Intrinsic protective mechanisms of the neuron-glia network against glioma invasion.	J Clin Neurosci 26: 19-25, 2016	Original Article
131	Yasuo Iwadate	脳神経外科	Transforming growth factor- β and stem cell markers are highly expressed around necrotic areas in glioblastoma.	J Neurooncol 129: 101-107, 2016	Original Article
132	Yasuo Iwadate	脳神経外科	Molecular imaging of 1p/19q deletion in oligodendroglial tumours with 11C-methionine positron emission tomography.	J Neurol Neurosurg Psychiatry 87: 1016-1021, 2016	Original Article
133	Kentarou Horiguchi	脳神経外科	A new multilayer reconstruction using nasal septal flap combined with fascia graft dural suturing for high-flow cerebrospinal fluid leak after endoscopic endonasal surgery.	Neurosurg Rev 39: 419-427, 2016	Original Article
134	Akihiko Adachi	脳神経外科	The optimal conditions for microcatheter shaping.	JNET 10: 236-242, 2016	Original Article
135	Hata A, Nakajima T, Yoshida S, 他	呼吸器外科	Living Donor Lung Transplantation for Pleuroparenchymal Fibroelastosis.	Ann Thorac Surg. 2016 May;101(5):1970-2.	Case report
136	Yamamoto T, Suzuki H, Nagato K, 他	呼吸器外科	Is left upper lobectomy for lung cancer a risk factor for cerebral infarction?	Surg Today. 2016 Jul;46(7):780-4. [Epub 2015 Aug 14]	Original Article
137	Hata A, Sekine Y, Kota O, 他	呼吸器外科	Impact of combined pulmonary fibrosis and emphysema on surgical complications and long-term survival in patients undergoing surgery for non-small-cell lung cancer.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2016 Jun 9;11:1261-8.	Original Article
138	Nakajima T, Yasufuku K, Fujiwara T, 他	呼吸器外科	Recent advances in endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration.	Respir Investig. 2016 Jul;54(4):230-6. [Epub 2016 Mar 5].	Review
139	Morimoto J, Nakajima T, Suzuki H, 他	呼吸器外科	Impact of free tumor clusters on prognosis after resection of pulmonary adenocarcinoma.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Jul;152(1):64-72.e1.	Original Article
140	Iwata T, Nagato K, Nakajima T, 他	呼吸器外科	Risk factors predictive of atrial fibrillation after lung cancer surgery.	Surg Today. 2016 Aug;46(8):877-86. [Epub 2015 Oct 15].	Original Article
141	Hishida T, Miyaoka E, Yokoi K, 他	呼吸器外科	Lobe-Specific Nodal Dissection for Clinical Stage I and II NSCLC: Japanese Multi-Institutional Retrospective Study Using a Propensity Score Analysis.	J Thorac Oncol. 2016 Sep;11(9):1529-37. [Epub 2016 May 29].	Original Article
142	Mizobuchi T, Yamamoto N, Nakajima M, 他	呼吸器外科	Salvage surgery for local recurrence after carbon ion radiotherapy for patients with lung cancer.	Eur J Cardiothorac Surg. 2016 May;49(5):1503-9. [Epub 2015 Oct 14].	Original Article
143	Suzuki H, Yoshino I.	呼吸器外科	Approach for oligometastasis in non-small cell lung cancer.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Apr;64(4):192-6. [Epub 2016 Feb 19].	Review
144	Tagawa T, Iwata T, Nakajima T, 他	呼吸器外科	Evolution of a Lung-Sparing Strategy with Sleeve Lobectomy and Induction Therapy for Non-small Cell Lung Cancer: 20-Year Experience at a Single Institution.	World J Surg. 2016 Apr;40(4):906-12.	Original Article
145	Wada H, Anayama T, Hirohashi K, 他	呼吸器外科	Thoracoscopic ultrasonography for localization of subcentimetre lung nodules.	Eur J Cardiothorac Surg. 2016 Feb;49(2):690-7.	Original Article
146	Yamada Y, Jang JH, De Meester I, 他	呼吸器外科	CD26 costimulatory blockade improves lung allograft rejection and is associated with enhanced interleukin-10 expression.	J Heart Lung Transplant. 2016 Apr;35(4):508-17. [Epub 2015 Nov 25].	Original Article
147	Suzuki H, Morimoto J, Mizobuchi T, 他	呼吸器外科	Does segmentectomy really preserve the pulmonary function better than lobectomy for patients with early-stage lung cancer?	Surg Today. 2016 Aug 2. [Epub ahead of print].	Original Article
148	Iwata T, Yoshino I, Yoshida S, 他	呼吸器外科	A phase II trial evaluating the efficacy and safety of perioperative pirfenidone for prevention of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis in lung cancer patients undergoing pulmonary resection: West Japan Oncology Group 6711 L (PEOPLE Study).	Respir Res. 2016 Jul 22;17(1):90.	Original Article
149	Morimoto J, Nakajima T, Suzuki H, Nagato K, Iwata T, Yoshida S, Fukuyama M, Ota S, Nakatani Y, Yoshino I.	呼吸器外科	Impact of free tumor clusters on prognosis after resection of pulmonary adenocarcinoma.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Jul;152(1):64-72.e1.	Original Article
150	Kamata T, Yoshida S, Iwata T, 他	呼吸器外科	Giant bronchogenic cyst with pericardial defect: a case report & literature review in Japan.	J Thorac Dis. 2016 Aug;8(8):E684-8.	Case report

151	Kamata T, Suzuki A, Mise N, 他	呼吸器外科	Blockade of programmed death-1/programmed death ligand pathway enhances the antitumor immunity of human invariant natural killer T cells.	Cancer Immunol Immunother. 2016 Dec;65(12):1477-1489.	Original Article
152	Hata A, Suzuki H, Nakajima T, 他	呼吸器外科	Concomitant Interstitial Lung Disease Is a Risk Factor for Pleural Invasion in Lung Cancer.	Ann Thorac Surg. 2016 Oct 17. pii:S0003-4975(16)31142-0. [Epub ahead of print]	Original Article
153	Ito T, Suzuki H, Yoshino I.	呼吸器外科	Mini review: surgical management of primary chest wall tumors.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Dec;64(12):707-714.	Review
154	Nakajima T, Yoshida S, Yoshino I.	呼吸器外科	Left carinal pneumonectomy using left bronchostomy: A novel technique of crossfield intubation.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Oct 22. pii: S0022-5223(16)31398-8. [Epub ahead of print].	Case report
155	Iwata T, Yoshida S, Fujiwara T, 他	呼吸器外科	Effect of Perioperative Pirfenidone Treatment in Lung Cancer Patients With Idiopathic Pulmonary Fibrosis.	Ann Thorac Surg. 2016 Dec;102(6):1905-1910.	Original Article
156	Kaiho T, Nakajima T, Yonekura S, 他	呼吸器外科	Descending necrotizing mediastinitis with Lemierre's syndrome.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Feb 1.[Epub ahead of print]	Case report
157	Nakajima T, Yoshida S, Yoshino I.	呼吸器外科	Left carinal pneumonectomy using left bronchostomy: A novel technique of crossfield intubation.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Feb;153(2):472-475.	Case report
158	Hata A, Suzuki H, Nakajima T, 他	呼吸器外科	Concomitant Interstitial Lung Disease Is a Risk Factor for Pleural Invasion in Lung Cancer.	Ann Thorac Surg. 2017 Mar;103(3):967-974.	Original Article
159	Murakawa T, Sato H, Okumura S, 他	呼吸器外科	Thoracoscopic surgery versus open surgery for lung metastases of colorectal cancer: a multi-institutional retrospective analysis using propensity score adjustment†.	Eur J Cardiothorac Surg. 2017 Feb 16. [Epub ahead of print].	Original Article
160	Nakajima T, Fujiwara T, Saegusa F, 他	呼吸器外科	Specimen acquisition training with a new biosimulator in endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration.	Medicine (Baltimore). 2017 Mar;96(13):e6513.	Original Article
161	Terada J, Fukushi I, Tatsumi K, et al.	呼吸器内科	Disharmony between wake- and respiration-promoting activities: Effects of modafinil on ventilatory control in rodents.	Respir Res. 2016; 17: 148.	Original Article
162	Juho T, Tanabe N, Sugiura T,et al.	呼吸器内科	Importance of carefully interpreting computed tomography images to detect partial anomalous pulmonary venous return.	Respir Investig. 2016; 54: 69-74.	Original Article
163	Juho T, Tanabe N, Sakao S,et al.	呼吸器内科	Severe pulmonary arteriopathy is associated with persistent hypoxemia after pulmonary endarterectomy in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	PLoS one. 2016; 11: e0161827.	Original Article
164	Nishimura R, Tanabe N, Sekine A,et al.	呼吸器内科	Synergistic effects of ACE insertion/deletion and GNB3 C825T polymorphisms on the efficacy of PDE-5 inhibitor in patients with pulmonary hypertension.	Respiration. 2016; 91: 132-140.	Original Article
165	Sekine A, Nishiwaki T, Nishimura R,et al.	呼吸器内科	Prominin-1/CD133 expression as potential tissue-resident vascular endothelial progenitor cells in the pulmonary circulation.	Circ J. 2016; 80: 1259-1264.	Original Article
166	Kasai H, Matsumura A, Sugiura T,et al.	呼吸器内科	Mean pulmonary artery pressure using echocardiography in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	PLoS one. 2016; 11: e0161827.	Original Article
167	Suda R, Tanabe N, Ishida K,et al.	呼吸器内科	Prognostic and pathophysiological marker for patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension: Usefulness of diffusing capacity for carbon monoxide at diagnosis.	Respirology. 2016 Sep 11. [Epub ahead of print]	Original Article
168	Kato F, Tanabe N, Ishida K,et al.	呼吸器内科	Coagulation-fibrinolysis system and postoperative outcomes of patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Circ J. 2016; 80: 970-979.	Original Article
169	Fujita T, Yoshioka K, Umezawa H,et al.	呼吸器内科	Role of CD69 in the pathogenesis of elastase-induced pulmonary inflammation and emphysema.	Biochem Biophys Rep [In press]	Original Article
170	Fujita T, Ikari J, Watanabe A,et al.	呼吸器内科	Clinical characteristics of pulmonary nocardiosis in immunocompetent patients.	J Infect Chemother. 2016; 22: 738-743.	Original Article
171	Takeuchi T, Sakao S, Kato F,et al.	呼吸器内科	Pulmonary haemodynamics are correlated with intimal lesions in a rat model of severe PAH: attenuation of pulmonary vascular remodelling with ambrisentan.	Histol Histopathol. 2016; 31: 1357-1365.	Original Article
172	Suzuki T, Tada Y, Nishimura R,et al.	呼吸器内科	Endothelial-to-mesenchymal transition in lipopolysaccharide-induced acute lung injury drives a progenitor cell-like phenotype.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2016; 310: L1185-L1198.	Original Article
173	Ishiwata T, Tsushima K, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	End-tidal capnographic monitoring to detect apnea episodes during flexible bronchoscopy under sedation.	BMC Pulmonary Medicine. 2016 [In press]	Original Article
174	Kurimoto R, Ikeda K, Nakagomi D,et al.	呼吸器内科	Eosinophilic fasciitis illustrated by [18F] FDG-PET/CT.	Intern Med. 2016	Original Article
175	Kurimoto R, Iwasawa S, Ebata T,et al.	呼吸器内科	Drug resistance originating from a TGF-β /FGF-2-driven epithelial-to-mesenchymal transition and its reversion in human lung adenocarcinoma cell lines harboring an EGFR mutation.	Intern Med. 2016; 55: 2321-2322.	Original Article
176	Kurimoto R, Iwasawa S, Ebata T,et al.	呼吸器内科	Pirfenidone in reversion of the epithelial-to-mesenchymal transition in human lung adenocarcinoma.	Int J Oncol. 2016; 48: 1825-1836.	Original Article
177	Matsumura T, Terada J, Kinoshita T,et al.	呼吸器内科	Circulating anti-coatamer protein complex subunit epsilon (COPE) autoantibodies as a potential biomarker for cardio- and cerebro-vascular events in patients with obstructive sleep apnea.	J Clin Sleep Med 2016 Nov 28. [Epub ahead of print]	Original Article
178	Inagaki T, Yahaba M, Terada J,et al.	呼吸器内科	Selecting a suitable portable oxygen carrier for patients with moderate to severe chronic obstructive pulmonary disease: difference between a cylinder cart and backpack.	J Clin Respir Dis Care 2016; 2: 4.	Original Article
179	Kawamura K, Wada A, Tatsumi K, et al.	呼吸器内科	Expression of activation-induced Cytidine deaminase is associated with a poor prognosis of diffuse large B cell lymphoma patients treated with CHOP-based chemotherapy.	J Cancer Res Clin Oncol. 2016; 142: 27-36.	Original Article
180	Sakaida E, Iwasawa S, Kurimoto R,et al.	呼吸器内科	Safety of a short hydration method for cisplatin administration in comparison with a conventional method —a retrospective study.	Jpn J Clin Oncol. 2016; 46: 370-377.	Original Article

181	Ozawa K, Tanabe N, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Contribution of myocardial layers of right ventricular free wall to right ventricularfunction in pulmonary hypertension: Analysis using multilayer longitudinalstrain by two-dimensional speckle-tracking echocardiography.	Int J Cardiol. 2016; 215: 457-462.	Original Article
182	Ozawa K, Tanabe N, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Detection of right ventricle wall motion asynergy in pulmonary hypertension subjects without left-sided heart disease.	Int J Cardiol 2016; 222: 375-378.	Original Article
183	Ozawa K, Tanabe N, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Detection of right ventricular myocardial fibrosis using quantitative CT attenuation of the right ventricular myocardium in the late phase on 320 slice CT in subjects with pulmonary hypertension.	Int J Cardiol. 2016; 228: 165-168.	Original Article
184	Seyama K, Hirai T, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	A nationwide epidemiological survey of alpha1-antitrypsin deficiency in Japan.	Respir Investig. 2016; 54: 201-206.	Original Article
185	Fukuchi Y, Tatsumi K, Inoue H,et al.	呼吸器内科	Prevention of COPD exacerbation by lysozyme: a double-blind, randomized, placebo-controlled study.	International Journal of COPD 2016; 11: 831-838.	Original Article
186	Hayashida M, Yasuo M, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Reductions in pulmonary function detected in patients with lymphangioliomyomatosis: An analysis of the Japanese National Research Project on Intractable Diseases database.	Respir Investig. 2016; 54: 193-200.	Original Article
187	Yamagata M, Ikeda K, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Prevalence and responsiveness to treatment of lung abnormalities on chest computed tomography in patients with microscopic polyangiitis: A multicenter, longitudinal, retrospective study of one hundred fifty consecutive hospital-based Japanese patients.	Arthritis & Rheumatology. 2016; 68: 713-723.	Original Article
188	Tahara N, Dobashi H, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Efficacy and safety of a novel endothelin receptor Antagonist, Macitentan, in Japanese patients with pulmonary arterial hypertension.	Circ J. 2016; 80: 1478-1483.	Original Article
189	Haga T, Fukuoka M, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	A prospective analysis of the efficacy and complications associated with deep sedation with midazolam during fiberoptic bronchoscopy.	Journal of Bronchology and Interventional Pulmonology. 2016; 23: 106-111.	Original Article
190	Haga T, Cho K, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Complications of fiberoptic bronchoscopy in very elderly adults.	J Am Geriatr Soc. 2016; 3: 676-677.	Original Article
191	Haga T, Fukuoka M, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Computed tomography for the diagnosis and evaluation of the severity of community-acquired pneumonia in the elderly.	Intern Med. 2016; 55: 437-441.	Original Article
192	Haga T, Fukuoka M, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Radiographic evaluation of nursing- and healthcare-associated pneumonia.	Geriatr Gerontol Int. 2016 [Epub ahead of print]	Original Article
193	Jiang Y, Zhong B, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Combination of a third generation bisphosphonate and replication-competent adenoviruses augments the cytotoxicity on mesothelioma.	BMC Cancer. 2016; 16: 455.	Original Article
194	Ishiwata T, Iwasawa S, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Prophylactic dexamethasone for radiation-induced bone-pain flare.	Lancet Oncology. 2016; 17: e39-40.	Letter
195	Suzuki T, Fujita A, Takamori M, et al.	呼吸器内科	Implication of immunohistochemistry for propionibacterium acnes in differential diagnosis of necrotizing granuloma.	J Pulm Respir Med. 2016; 6:2.	Case report
196	Fujita T, Terada J, Kitagawa M,et al.	呼吸器内科	Lipoid pneumonia with partial anomalous pulmonary venous return.	Intern Med. 2016; 55: 1399-1400.	Case report
197	Ishiwata T, Tanabe N, Shigeta A,et al.	呼吸器内科	Moyamoya disease and artery tortuosity as rare phenotypes in a patient with an elastin mutation.	Am J Med Genet. 2016;170:1924-7	Case report
198	Kurimoto R, Shono K, Onoda M, et al.	呼吸器内科	MYC/BCL2 double-hit lymphoma in a patient with rheumatoid arthritis associated with methotrexate treatment: a case report.	Intern Med. 2016; 5: 195.	Case report
199	Hata A, Nakajima T, Yoshida S,	呼吸器内科	Living donor lung transplantation for pleuroparenchymal fibroelastosis.	Ann Thorac Surg. 2016; 101: 1970-1972.	Case report
200	Funabashi N, Tanabe N, Tatsumi K,et al.	呼吸器内科	Combined ostium secundum type ASD and pulmonary arterial thromboembolism causing pulmonary artery enlargement, pulmonary hypertension and recurrent paradoxical cerebral embolism due to deep venous thrombosis.	Int Journal Cardiol. 2016; 207: 303-307.	Case report
201	Sugimoto S, Terada J, Naito A,et al.	呼吸器内科	Long-term clinical course of idiopathic pulmonary haemosiderosis with rheumatoid arthritis.	Respirol Case Rep 2016; 4: e00174.	Case report
202	Saito T, Terui K, Mitsunaga T, et al.	小児外科	Significance of imaging modalities for preoperative evaluation of the pancreaticobiliary system in surgery for pediatric choledochal cyst.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2016 ;23:347-52.	Original Article
203	Terui K, Nagata K, Hayakawa M, et al.	小児外科	Growth Assessment and the Risk of Growth Retardation in Congenital Diaphragmatic Hernia: A Long-Term Follow-Up Study from the Japanese Congenital Diaphragmatic Hernia Study Group.	Eur J Pediatr Surg. 2016;26:60-6.	Original Article
204	Mise N, Takami M, Suzuki A, et al	小児外科	Antibody-dependent cellular cytotoxicity toward neuroblastoma enhanced by activated invariant natural killer T cells.	Cancer Sci. 2016 ;107(3):233-41.	Original Article
205	Kuwabara S, Misawa S.	神経内科	Future treatment for Guillain-Barre syndrome	Clinical and Experimental Neuroimmunology. 2016Nov;7(4):320-323	Review
206	Kanai T, Uzawa A, Kawaguchi N, et al.	神経内科	HLA-DRB1*14 and DQB1*05 are associated with Japanese anti-MuSK antibody-positive myasthenia gravis patients	Journal of the Neurological Sciences. 2016 Apr 15;363:116-8.	Original Article
207	Masuda H, Mori M, Hirano S, et al.	神経内科	Impaired cognitive function and grey matter volume in multiple sclerosis relative to neuromyelitis optica spectrum disorder.	Multiple sclerosis journal. 2016;22(S3):767-768	Original Article
208	Masuda H, Mori M, Uzawa A, et al.	神経内科	Recovery from optic neuritis attack in neuromyelitis optica spectrum disorder and multiple sclerosis.	J Neurol Sci. 2016 Aug 15;367:375-9.	Original Article
209	Misawa S, Sato Y, Katayama K, et al.	神経内科	Safety and efficacy of thalidomide in patients with POEMS syndrome: a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled trial.	Lancet Neurol. 2016Oct;15(11):1129-37.	Original Article
210	Sekiguchi Y, Mori M, Misawa S, et al.	神経内科	How often and when Fisher syndrome is overlapped by Guillain-Barré syndrome or Bickerstaff brainstem encephalitis?	EUROPEAN JOURNAL OF NEUROLOGY. 2016 Jun;23(6):1058-63.	Original Article

211	Shibuya K, Misawa S, Kimura H, et al.	神経内科	Increased motor axonal persistent sodium currents predict rapid functional declines in amyotrophic lateral sclerosis	Neurology and Clinical Neuroscience. 2016May;4(3):108-111.	Original Article
212	Shibuya K, Susanna B. Park, Nimeshan Geevasinga, et al.	神経内科	Motor cortical function determines prognosis in sporadic ALS.	Neurology. 2016 Aug 2;87(5):513-20.	Original Article
213	Shibuya K, Susanna B. Park, Nimeshan Geevasinga, et al.	神経内科	Threshold tracking transcranial magnetic stimulation: Effects of age and gender on motor cortical function	Clinical Neurophysiology. 2016Jun;127(6):2355-61.	Original Article
214	Uzawa A, Kanai T, Kawaguchi N, et al.	神経内科	Relationship between damage-associated molecular pattern and cytokine levels in myasthenia gravis.	Clinical and Experimental Neuroimmunology. 2016;7(4):357-360	Original Article
215	Uzawa A, Mori M, Uchida T, et al.	神経内科	Seronegative neuromyelitis optica spectrum disorder patients diagnosed using new diagnostic criteria.	Multiple Sclerosis. 2016 Sep;22(10):1371-5.	Original Article
216	Uzawa A, Kanai T, Kawaguchi N, et al.	神経内科	Changes in inflammatory cytokine networks in myasthenia gravis.	Scientific Reports. 2016 May 13;6:25886.	Original Article
217	Yamamoto T, Asahina M, Yamanaka Y, et al.	神経内科	Urinary Dysfunctions Are More Severe in the Parkinsonian Phenotype of Multiple System Atrophy.	Movement Disorders Clinical Practice. 2016May/Jun;3(3):275-281. May/June 2016 Pages 275-281	Original Article
218	Kuwabara S, Sekiguchi Y, Misawa S.	神経内科	Electrophysiology in Fisher syndrome.	Clinical neurophysiology. 2017 Jan;128(1):215-219.	Review
219	Beppu M, Sawai S, Misawa S, et al.	神経内科	Serum cytokine and chemokine profiles in patients with juvenile muscular atrophy of distal upper extremity (Hirayama disease).	Journal of neuroimmunology. 2017 Jan 15;302:20-22.	Original Article
220	Kanai T, Uzawa A, Kawaguchi N, et al.	神経内科	Adequate tacrolimus concentration for myasthenia gravis treatment.	European Journal of Neurology. 2017 Feb;24(2):270-275.	Original Article
221	Shibuya K, Park SB, Howells J, et al.	神経内科	Laterality of motor cortical function measured by transcranial magnetic stimulation threshold tracking.	MUSCLE & NERVE. 2017 Mar;55(3):424-427.	Original Article
222	Yamamoto T, Asahina M, Yamanaka Y, et al.	神経内科	The utility of post-void residual volume versus sphincter electromyography to distinguish between multiple system atrophy and Parkinson's disease	PLOS ONE. 2017 Jan 6;12(1):e0169405.	Original Article
223	Aotsuka Y, Uzawa A, Nishimura K, et al.	神経内科	Progressive Multifocal Leukoencephalopathy Localized in the Cerebellum and Brainstem Associated with Idiopathic CD4+ T Lymphocytopenia	Internal medicin. 2016;55(12):1645-7.	Case report
224	Araki N, Misawa S, Shibuya K, et al.	神経内科	POEMS syndrome and calciphylaxis: an unrecognized cause of abnormal small vessel calcification	Orphanet Journal of Rare Diseases. 2016 Apr 12;11:35.	Original Article
225	Iwai Y, Shibuya K, Misawa S, et al.	神経内科	Axonal Dysfunction Precedes Motor Neuronal Death in Amyotrophic Lateral Sclerosis.	PLoS One. 2016 Jul;11(7):e0158596.	Original Article
226	Muto T, Ohwada C, Sawai S, et al.	神経内科	Acutely deteriorated extravascular volume overload during peripheral blood stem cell mobilization in POEMS syndrome: A case series with cytokine analysis.	TRANSFUSION AND APHERESIS SCIENCE. 2016 Apr;54(2):276-81.	Case report
227	Watanabe H, Atsuta N, Hirakawa A, et al.	神経内科	A rapid functional decline type of amyotrophic lateral sclerosis is linked to low expression of TTN.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2016 Aug;87(8):851-8.	Original Article
228	Yamaguchi N, Misawa S, Sato Y, et al.	臨床試験部	A Prospective, Multicenter, Randomized Phase II Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Eculizumab in Patients with Guillain-Barré Syndrome (GBS): Protocol of Japanese Eculizumab Trial for GBS (JET-GBS).	JMIR research protocols. 2016 Nov 7;5(4):e210.	Original Article
229	Yokouchi H, Baba T, Misawa S, et al.	神経内科	Correlation between peripapillary retinal thickness and serum level of vascular endothelial growth factor in patients with POEMS syndrome.	BRITISH JOURNAL OF OPHTHALMOLOGY. 2016 Jul;100(7):897-901.	Original Article
230	Shimada H, Kitamura S, Shinotoha H, et al.	神経内科	Association between Ab and tau accumulations and their influence on clinical features in aging and Alzheimer's disease spectrum brains: A [11C]PBB3-PET study	Alzheimer's & Dementia. 2016 Dec 22;6:11-20.	Original Article
231	Watanabe E, Yamazaki S, Setoguchi D, et al.	救急科	Pharmacokinetics of Standard- and Reduced-Dose Recombinant Human Soluble Thrombomodulin in Patients with Septic Disseminated Intravascular Coagulation during Continuous Hemodiafiltration.	Front Med 2017 Feb (オンライン)	Original Article
232	Takahashi Waka	救急科・集中治療部	Interleukin-6 Levels Act as a Diagnostic Marker for Infection and a Prognostic Marker in Patients with Organ Dysfunction in Intensive Care Units.	SHOCK 46(3)2016	Original Article
233	Ishiwada N, Watanabe M, Murata S, et al.	感染症内科	Clinical and bacteriological analyses of bacteremia due to Corynebacterium	J Infect Chemother. 2016 Dec;22(12):790-793.	Original Article
234	Ishiwada N, Takeshita K, Yaguchi T, et al.	感染症内科	The First Case of Invasive Mixed-Mold Infections Due to Emericella	Mycopathologia. 2016 Apr;181(3-4):305-9.	Original Article
235	Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Giant bilateral sporadic renal angiomylipoma	CMAJ. 2016 Aug 9;821.	Case report
236	Suzuki S, Ohira Y, Ikusaka M	総合診療科	Muscle hypertrophy in a patient with immunoglobulin d multiple myeloma	J Gen Intern Med. 2016 May;31:583-4.	Case report
237	Shikino K, Suzuki S, Hirose Y, et al	総合診療科	Low back pain after sudden onset of abdominal pain in a patient with crohn's disease	Am J Med. 2016 Apr (オンライン)	Letter
238	Shikino K, Ohira Y, Ikusaka M	総合診療科	Scrub typhus (tsutsugamushi disease) presenting as fever with an eschar	J Gen Intern Med. 2016 May;31:582.	Case report
239	Kondo T, Terada K	総合診療科	Unexpected cause of urticaria	Med J Aust. 2016 Apr 18;266.	Case report
240	Shikino K, Ikusaka M, Miyahara M, et al	総合診療科	Unilateral lower abdominal wall protrusion and umbilical deviation	Clin Case Rep. 2016 Feb 29;4:1-2.	Case report

241	Mito T, Hirota Y, Suzuki S, et al	総合診療科	<i>Bartonella henselae</i> infective endocarditis detected by a prolonged blood culture	Intern Med. 2016 55;3065-3067.	Case report
242	Kondo T, Uehara T	総合診療科	Immunoglobulin g4-related disease with fibroinflammatory lesions in the pleura, bile ducts, and pericardium	CMAJ. 2016 Sep 20;972	Case report
243	Shikino K, Hirose Y, Ikusaka M	総合診療科	Oblique flashlight test: lighting up acute angle-closure glaucoma	J Gen Intern Med. 2016 Dec 31;1538	Case report
244	Kajiwara H, Ohira Y, Ikegami A, et al	総合診療科	Utilizing a medical questionnaire to predict anxiety and depression in outpatients	Int J Gen Med. 2016 Jun 11;199-204.	Original Article
245	Hirose Y, Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	An abscess of urachal remnant	J Gen Intern Med. 2017 Mar 32;360	Case report
246	Shikino K, Katsuyama Y, Ohira Y, et al	総合診療科	Acute onset elbow swelling	Am Fam Physician. 2016 Aug 1;243-4	Case report
247	Shikino K, Suzuki S, Yokokawa D, et al	総合診療科	Dialysis-related spondyloarthropathy with cervical amyloidoma	Am J Med. 2016 Dec (オンライン)	Case report
248	Shikino K, Ota T, Uehara T, et al	総合診療科	A 68-year-old man with a blue toe	Cleve Clin J Med 2016 Jun 84(6) 436-7	Case report
249	Ohta M, Ohira Y, Uehara T, et al	総合診療科	How accurate are first visit diagnoses using synchronous video visits with physicians?	Telemed J E Health. 2017 Feb 23;119-129	Original Article
250	Hirose Y, Shikino K, Ikusaka M	総合診療科	Surfer's ear and external auditory canal exostoses	QJM. 2016 Nov 109;759	Case report
251	Shikino K, Hirose Y, Nakagawa S, et al	総合診療科	Non-episodic angioedema associated with eosinophilia	BMJ Case Rep. 2016 Sep 14	Case report
252	Hirose Y, Hirota Y, Yokokawa D, et al	総合診療科	Acute sphenoiditis involving the second branch of the trigeminal nerve	QJM. 2016 Nov 109;745-746	Case report
253	Uehara T, Ikusaka M, Ohira Y, et al	総合診療科	Olmesartan-induced enteropathy manifesting as wernicke-korsakoff syndrome	Intern Med. 2016 55;3675-3678	Case report
254	Kondo T, Terada K	総合診療科	Midgut volvulus	BMJ. 2017 Mar 16;6782	Case report
255	Kondo T, Uehara T, Noda K, et al	総合診療科	Vulvar varicosity	BMJ. 2017 Jan 26;6332	Case report
256	Shikino K, Ota T, Ikusaka M	総合診療科	Crowned dens syndrome	Am J Med. 2017 Mar 130:e111-e112	Case report
257	Kondo T, Terada K	総合診療科	Strategic lacunar infarction	Med J Aust. 2017 May 1;340	Case report
258	Ikegami A, Ohira Y, Uehara T, et al	総合診療科	Problem-based learning using patient-simulated videos showing daily life for a comprehensive clinical approach	Int J Med Educ. 2017 Feb 27;70-76	Original Article
259	Taida T, Arai M, Kanda T, et al	消化器内科	The prognosis of hepatitis B inactive carriers in Japan: a multicenter prospective study.	J Gastroenterol. 2017 Jan;52(1):113-122	Original Article
260	Yokoyama M, Chiba T, Zen Y, et al.	消化器内科	Histone lysine methyltransferase G9a is a novel epigenetic target for the treatment of hepatocellular carcinoma.	Oncotarget. 2017 Mar 28;8(13):21315-21326	Original Article
261	Kiyono S, Maruyama H, Kondo T, et al.	消化器内科	Hemodynamic effect of the left gastric artery on esophageal varices in patients with cirrhosis.	J Gastroenterol. 2016 Sep;51(9):900-9	Original Article
262	Yasui S, Fujiwara K, Haga Y, et al.	消化器内科	Infectious complications, steroid use and timing for emergency liver transplantation in acute liver failure: analysis in a Japanese center.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2016 Dec;23(12):756-762	Original Article
263	Kanda T, Jiang X, Nakamura M, et al	消化器内科	Overexpression of the androgen receptor in human hepatoma cells and its effect on fatty acid metabolism.	Oncol Lett. 2017 Jun;13(6):4481-4486	Original Article
264	Sakai Y, Tsuyuguchi T, Mikata R, et al.	消化器内科	Utility of endoscopic retrograde cholangiopancreatography on biliopancreatic diseases in patients with Billroth II-reconstructed stomach.	World J Gastrointest Endosc. 2017 Mar 16;9(3):127-132.	Original Article
265	Isshiki Y, Ono K, Shono K, Onoda M., et al.	血液内科	Autoimmune Thyroid Dysfunction after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation.	Leuk Lymphoma. 2016; 57(5):1227-9.	Case report
266	Sakaida E, Iwasawa S, Kurimoto R., et al.	血液内科	Safety of a short hydration method for cisplatin administration in comparison with a conventional method—a retrospective study	Jpn J Clin Oncol. 2016; 46(4):370-377	Original Article
267	Shimizu R, Muto T, Aoyama K, et al.	血液内科	Possible role of intragenic DNA hypermethylation in gene silencing of the tumor suppressor gene NR4A3 in acute myeloid leukemia.	Leuk Res 2016; 50: 85-94	Original Article
268	Sugita Y, Ohwada C, Kawaguchi T, et al.	血液内科	Prognostic impact of serum soluble LR11 in newly diagnosed diffuse large B-Cell lymphoma: a multicenter prospective analysis	Clin Chim Acta 2016; 463: 47-52	Original Article
269	Muto T, Ohwada C, Takaishi K, et al.	血液内科	Safety and efficacy of granulocyte-colony stimulating factor monotherapy for peripheral blood stem cell collection in POEMS Syndrome.	Biol Blood Marrow Transplant. 2017 Feb;23(2):361-363.	Original Article
270	Shimizu R, Ohwada C, Nagao Y, et al.	血液内科	The successful treatment of a cord blood transplant recipient with Varicella Zoster virus meningitis, radiculitis and myelitis with foscarnet.	Intern Med. 2017;56(3):353-356	Case report

271	Kosaka K, Kubota Y, Adachi N, et al.	形成・美容外科	Human adipocytes from the subcutaneous superficial layer have greater adipogenic potential and lower PPAR- γ DNA methylation levels than deep layer adipocytes.	Am J Physiol Cell Physiol. 2016 Aug 1;311(2):C322-329	Original Article
272	Takano S, Reichert M, Bakir B, 他	肝胆膵外科	Prrx1 isoform switching regulates pancreatic cancer invasion and metastatic colonization.	Genes Dev. 2016;30:233-47.	Original Article
273	Nojima H, Freeman CM, Schuster RM, 他	肝胆膵外科	Hepatocyte exosomes mediate liver repair and regeneration via sphingosine-1-phosphate.	J Hepatol 2016; 64: 60-68.	Original Article
274	Nojima H, Konishi T, Freeman CM, 他	肝胆膵外科	Chemokine Receptors, CXCR1 and CXCR2, Differentially Regulate Exosome Release in Hepatocytes.	PLoS One 2016; 11: e0161443	Original Article
275	Nojima H, Kuboki S, Shinoda K, 他	肝胆膵外科	Activation of peroxisome proliferator-activated receptor- γ inhibits tumor growth by negatively regulating nuclear factor- κ B activation in patients with hepatocellular carcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2016; 23: 574-84.	Original Article
276	Ito T, Hirose K, Norimoto A et al.	アレルギー・膠原病内科	Dectin-1 Plays an Important Role in House Dust Mite-Induced Allergic Airway Inflammation through the Activation of CD11b+ Dendritic Cells.	J Immunol. 2017;198(1):61-70.	Original Article
277	Furuta S, Chaudhry AN, Arimura et al.	アレルギー・膠原病内科	Comparison of the Phenotype and Outcome of Granulomatosis with Polyangiitis Between UK and Japanese Cohorts.	J Rheumatol. 2017;44(2):216-222.	Original Article
278	Hirose K, Iwata A, Tamachi T et al.	アレルギー・膠原病内科	Allergic airway inflammation: key players beyond the Th2 cell pathway.	Immunol Rev. 2017;278(1):145-161.	Review
279	Suzuki K, Meguro K, Nakagomi D et al.	アレルギー・膠原病内科	Roles of alternatively activated M2 macrophages in allergic contact dermatitis.	2017 66(3):392-397.	Review
280	Furuya H, Ikeda K, Miyachi K et al.	アレルギー・膠原病内科	SAPHO syndrome-like presentation of disseminated nontuberculous mycobacterial infection in a case with neutralizing anti-IFN γ autoantibody.	Rheumatology (Oxford). 2017 Mar 27.	Case report
281	Yokote K, Terauchi Y, Nakamura I 他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Real-world evidence for the safety of ipragliflozin in elderly Japanese patients with type 2 diabetes mellitus (STELLA-ELDER): final results of a post-marketing surveillance study.	Expert Opin Pharmacother.2016 Oct;17(15):1995-2003.	Original Article
282	Yokote K, Chanprasert S, Lee L他	糖尿病・代謝・内分泌内科	WRN Mutation Update: Mutation Spectrum, Patient Registries, and Translational Prospects.	Hum Mutat. 2017 Jan;38(1):7-15.	Review
283	Hashimoto N, Tanaka T.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Role of miRNAs in the pathogenesis and susceptibility of diabetes mellitus.	J Hum Genet. 2017 Feb;62(2):141-150.	Original Article
284	Tamura A, Nishimoto K, Seki T他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Somatic KCNJ5 mutation occurring early in adrenal development may cause a novel form of juvenile primary aldosteronism.	Mol Cell Endocrinol. 2017 Feb 5;441:134-139.	Case report
285	Hayashi A, Maeda Y, Takemoto M他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Outcomes of laparoscopic sleeve gastrectomy in elderly obese Japanese patients.	Geriatr Gerontol Int. 2017 Mar 30.	Original Article
286	Ide K, Baba Y, Takemoto M他	糖尿病・代謝・内分泌内科	Case of Werner syndrome complicated by adrenal insufficiency due to hypothalamic dysfunction.	Geriatr Gerontol Int. 2017 Feb;17(2):346-347.	Case report
287	Ishibashi R, Takemoto M, Akimoto Y他	糖尿病・代謝・内分泌内科	A novel podocyte gene, semaphorin 3G, protects glomerular podocyte from lipopolysaccharide-induced inflammation.	Sci Rep. 2016 May 16;6:25955.	Original Article
288	Abe shintaro, Ishida keiichi, Masuda Masahisa 他	心臓血管外科	A prospective, randomized study of inhaled prostacyclin versus nitric oxide in patients with residual pulmonary hypertension after pulmonary endarterectomy	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2017 March;65(3):153-159	Original Article
289	Kohno Hiroki, Ueda Hideki, Matsuura Kaoru他	心臓血管外科	Long-term consequences of atrial fibrillation after aortic valve replacement.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2017 March;25(3):179-191	Original Article
290	Kawahira H, Okazumi S, Uesato M, et al.	食道・胃腸外科/ 乳腺・甲状腺外科	A case of squamous cell carcinoma initially diagnosed as cN4 with diffuse lymph node swelling which disappeared after the eradication of Helicobacter pylori.	Esophagus. 2016 April;13(2):215-219	Case report
291	Otsuka R, Kano M, Hayashi H, et al.	食道・胃腸外科/ 乳腺・甲状腺外科	Probable IgG4-related sclerosing disease presenting as a gastric submucosal tumor with an intense tracer uptake on PET/CT: a case report.	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):33(Open access)	Case report
292	Kano M, Hanari N, Gunji H, et al.	食道・胃腸外科/ 乳腺・甲状腺外科	Is "functional end-to-end anastomosis" really functional? A review of the literature on stapled anastomosis using linear staplers.	Surg Today. 2017 Jan;47(1):1-7	Review
293	Ohira G, Miyauchi H, Narushima K, et al.	食道・胃腸外科/ 乳腺・甲状腺外科	Predicting difficulty in extending the ileal pouch to the anus in restorative proctocolectomy: investigation of a simple predictive method using computed tomography.	Colorectal Dis. 2017 Jan;19(1):O34-O38	Original Article
294	Beppu M, Sawai S, Misawa S, et al.	検査部・遺伝子診療部	Serum cytokine and chemokine profiles in patients with juvenile muscular atrophy of distal upper extremity (Hirayama disease).	J Neuroimmunol. 2017 Jan ;302:20-22.	Original Article
295	Kobayashi S, Hoshino T, Hiwasa T, et al. Y, Tanaka T, Matsubara H, Shimada H, Nomura F, Matsushita K.	検査部	Anti-FIRs (PUF60) auto-antibodies are detected in the sera of early-stage colon cancer patients.	Oncotarget. 2016 Dec ;7(50):82493-82503.	Original Article
296	Satoh M, Ishige T, Ogawa S, et al.	マススペクトロメリー検査診断学	Development and validation of the simultaneous measurement of four vitamin D metabolites in serum by LC-MS/MS for clinical laboratory applications.	Anal Bioanal Chem. 2016 Nov;408(27):7617-7627.	Original Article
297	Nomura F, Setou M, Niwa T.	マススペクトロメリー検査診断学・ 遺伝子診療部	39th and 40th Annual Meetings of the Japanese Society for Biomedical Mass Spectrometry (JSBMS): New Applications of Mass Spectrometry in Biomedicine.	Anal Bioanal Chem. 2016 Nov;408(27):7545-7546.	Original Article
298	Abulaiti G, Sawai S, Satoh M, et al.	検査部	Proteome Analysis of the Cerebellum Tissue in Chronically Alcohol-Fed Rats.	J Alcohol Drug Depend.2016 Oct;4:249.	Original Article
299	Ishige T, Itoga S, Matsushita K, et al.	検査部	Locked nucleic acid probe enhances Sanger sequencing sensitivity and improves diagnostic accuracy of high-resolution melting-based KRAS mutational analysis.	Clin Chim Acta. 2016 Jun ;457:75-80	Original Article
300	Tsuchida S, Satoh M, Takiwaki M, et al.	マススペクトロメリー検査診断学	Detection of Ubiquitinated Dermcidin in Gingival Crevicular Fluid in Periodontal Disease.	Int J Pept Res Ther. 2016 Jun;22(2): 249-253	Original Article

301	Yumiko Kimata, Keiko Ogawa, Hideki Okamoto, et al.	和漢診療科	Efficacy of Japanese traditional (Kampo) medicine for treating chemotherapy-induced peripheral neuropathy: A retrospective case series study.	World J Clin Cases	Case report
302	Arai M, Okimoto K, Ishigami H 他	腫瘍内科	A randomized controlled trial comparing water exchange and air insufflation during colonoscopy without sedation.	Int J Colorectal Dis. 2016 Jun;31:1217-23.	Original Article

小計2

合計302

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含まれるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Mukai H	放射線科	Basal cell adenoma of the parotid gland; MR features and differentiation from pleomorphic adenoma.	Dentomaxillofacial Radiol. 2016 Oct (オンライン)	Original Article
2					
3					
~					

計 1件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
手順書の主な内容	
<p>特定臨床研究の審査は臨床研究倫理審査委員会が附属病院に設置されており、それぞれ規程と手順書が整備されている。手順書には、医薬品・医療機器・再生医療等製品の臨床試験等に関わる業務手順が示されている。ネットワークとしての中央倫理審査委員会機能を果たすことができる手順となっている。また、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に対応した倫理学・法律学の専門家、一般の立場から意見を述べることのできる委員が適切に指名された構成となっている。</p>	
<p>1. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程</p> <p>千葉大学医学部附属病院（以下「病院」という。）で行われるヒトを対象とした研究（以下「研究」という。）について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査に当たることを目的として千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を置く。</p> <p>一 ヘルシンキ宣言（1964年世界医師会採択、2000年世界医師会修正）</p> <p>二 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）</p>	
<p>2. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会運営手順書</p> <p>千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程の定めるところにより、千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）の運営方法を定め、医薬品の臨床試験等に関わる業務手順を示す。本委員会は、本院においてヒトに対して安全性が確認されている医薬品および医療機器の臨床試験又は臨床使用（以下、臨床試験及び臨床使用を一括して「臨床試験等」という。）を行うことの適否および継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等に基づいて審査する。</p>	
<p>3. 千葉大学医学部附属病院自主臨床試験取扱手順書</p> <p>国立大学法人千葉大学医学部附属病院（以下「本院」という。）における研究者が主導して行う医薬品及び医療機器の臨床試験（自主臨床試験；以下「臨床試験」という。）及び未承認薬等の臨床使用（以下、臨床試験と併せて「臨床試験等」という。）の実施に際しての遵守事項並びに適正な実施に必要な手続きと運用に関する事項を定める。</p> <p>本手順書は、臨床試験を実施するにあたり、ヘルシンキ宣言及び「臨床研究に関する倫理指針（平成16年12月28日改正）」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年12月22日）」、並びに「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成9年厚生省令第28号）」及び「医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成17年厚生労働省令第36号）」（以下「GCP」という。）等に基づき、被験者の人権、安全及び福祉の保護のもとに、臨床試験の科学的妥当性と成績の信頼性を確保するために最低限遵守すべき事項を示したものであり、本院の臨床研究倫理審査委員会で審査を行う臨床試験等に対して適用する。</p>	

③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11回
----------------	-------

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無

規定の主な内容

1. 国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程

国立大学法人千葉大学(以下「本学」という。)に、本学利益相反マネジメントポリシーに基づき、本学の役員及び職員に係る利益相反に適切に対処するとともに利益相反に関する重要事項を審議するため、利益相反委員会を置き、次に掲げる事項を審議する。

- 一 利益相反マネジメントポリシーに関すること。
- 二 利益相反ガイドラインに関すること。
- 三 利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関すること。
- 四 利益相反に関する調査及び審査に関すること。
- 五 その他利益相反に関する重要事項

本規程第9条に、「臨床研究に係る利益相反委員会については、別に定める」ことが規定されている。

2. 千葉大学医学部附属病院各種委員会規程及び別表 常置委員会

千葉大学医学部附属病院各種委員会規程第3条に基づく常置委員会として、別表 常置委員会のとおり、①臨床研究に係る利益相反ポリシーに関する事項、②臨床研究に係る利益相反マネジメントに関する事項、③臨床研究に係る利益相反防止に関する施策及び啓発活動に関する事項、④臨床研究に係る利益相反に関する調査及び審査に関する事項、⑤その他臨床研究に係る利益相反に関する重要事項を所轄する。

3. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー

本ポリシーは平成17年9月に制定され、臨床研究を行う研究者と関係者、被験者、大学などを取り巻く利益相反の存在を明らかにすることによって、被験者の保護を最優先としつつ、大学や研究者などの正当な権利を認め社会の理解と信頼を得て、大学の社会的信頼を守り、臨床研究の適正な推進を図る。

4. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

千葉大学医学部附属病院（以下「病院」という。）における臨床研究に係る利益相反の取扱い・マネジメントは、国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程第9条に基づき、千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会を設置し、千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー、臨床研究の利益相反ポリシー策定に関するガイドライン（平成18年3月文部科学省）、厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest：COI）の管理に関する指針（平成20年3月31日科発第0331001号厚生科学課長決定）並びに法令又はこれに基づく特別の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

本規程第4条（管理の手続き）及び第5条（管理の実施）に従い、臨床研究実施者（必要に応じて臨床研究関係者）は臨床研究の利益相反に関する自己申告書を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出し、利益相反委員会において審査並びにマネジメントを行う。利益相反委員会の審査結果を臨床研究倫理審査委員会に報告し、臨床研究倫理審査委員会の審査結果も踏まえて、利益相反管理も含めて審査を行っている。

5. 臨床研究の利益相反に関する自己申告書

臨床研究実施者及び倫理審査委員会の委員等は、臨床研究に関する利益開示を受ける委員会として規定されている利益相反委員会に利益相反に関する自己申告書を提出し、適切なマネジメント受け、必要な場合には試験実施計画書を変更する。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 11回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況

年 18回

・研修の主な内容

・臨床研究入門講義 7回、臨床研究応用講義 7回（倫理規範・海外の法令・国際ガイドラインについて、臨床試験の倫理及び利益相反）

・臨床研究に関する特別セミナー 4回「試験デザイン」「統計と信頼性保証」「医薬品業界における不正行為と臨床研究」「臨床試験とCOI」

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(目的と特徴)
● 初期研修を修了した医師・歯科医師が臨床医学系専門領域の学会認定専門医を取得する
● 2年間の卒後研修を含む新しい枠組みでの学会認定専門医を取得できるプログラム
● 内科、外科の場合は内科認定医・認定内科専門医、外科専門医を取得できると共に、さらにサブスペシャリティーの専門医を取得できるプログラム
(研修期間)
● 研修期間は3～5年(卒後研修:2年を含まない)原則として各専門領域の学会専門医取得に定められた期間
(到達目標)
● 専門医としての患者ケアのための臨床能力を身につける
● 専門医としての患者ケアのための知識の習得と応用が出来る
● 診療経験を振り返り臨床能力を向上させることが出来る
● 必要かつ十分なコミュニケーション能力を示すことが出来る
● 医師としてのプロフェッショナリズムを身につける
● 家族・地域・制度などの医療資源を理解し活用することが出来る
● 指導医としての教育的役割を果たすことが出来る
臨床研究の意義を理解し倫理原則にしたがって研究を行うことが出来る

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	90 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
加藤 直也	消化器内科	科長(教授)	30年	
堺田 恵美子	血液内科	科長(診療教授)	22年	
浅沼 克彦	腎臓内科	科長(教授)	22年	
中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	科長(教授)	28年	
横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	科長(教授)	28年	
小林 欣夫	循環器内科	科長(教授)	28年	
小林 欣夫	冠動脈疾患治療部	部長(教授)	28年	
巽 浩一郎	呼吸器内科	科長(教授)	37年	
桑原 聡	神経内科	科長(教授)	32年	
生坂 政臣	総合診療科	科長(教授)	31年	
並木 隆雄	和漢診療科	科長(診療教授)	31年	
猪狩 英俊	感染症内科	科長(診療教授)	28年	
滝口 裕一	腫瘍内科	科長(教授)	33年	
松宮 護郎	心臓血管外科	科長(教授)	30年	
松原 久裕	食道・胃腸外科	科長(教授)	32年	
大塚 将之	肝胆膵外科	科長(教授)	28年	

長嶋 健	乳腺・甲状腺外科	科長（診療教授）	28年	
吉野 一郎	呼吸器外科	科長（教授）	29年	
吉田 英生	小児外科	科長（教授）	38年	
滝口 裕一	臨床腫瘍部	部長（教授）	33年	
磯野 史朗	麻酔・疼痛・緩和医療科	科長（教授）	32年	
市川 智彦	泌尿器科	科長（教授）	29年	
大鳥 精司	整形外科	科長（教授）	22年	
馬場 隆之	眼科	科長（診療教授）	19年	
松江 弘之	皮膚科	科長（教授）	29年	
岡本 美孝	耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長（教授）	37年	
三川 信之	形成・美容外科	科長（教授）	25年	
伊豫 雅臣	精神神経科	科長（教授）	32年	
岩立 康男	脳神経外科	科長（教授）	33年	
生水 真紀夫	婦人科・周産期母性科	科長（教授）	35年	
下条 直樹	小児科	科長（教授）	37年	
宇野 隆	放射線科	科長（教授）	28年	
織田 成人	救急科・集中治療部	科長（教授）	38年	
織田 成人	人工腎臓部	部長（教授）	38年	
村田 淳	リハビリテーション科	科長（診療教授）	30年	
伊豫 雅臣	こどものこころ診療部	部長（教授）	32年	
松下 一之	検査部	部長（診療教授）	28年	
中谷 行雄	病理診断科・病理部	部長（教授）	38年	
露口 利夫	内視鏡センター	センター長（診療教授）	32年	
丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	科長（教授）	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
【病棟患者急変対応セミナー】 ・研修の主な内容 医師1~2名（例：指導医、研修医）、看護師2~3名（例：熟練、中堅、新人看護師）、他職種でチームを形成し、1~2チームがあらかじめ作成したシナリオ（1~2種類※）にもとづいてシミュレーション実習を行う。シミュレーターは高性能患者シミュレーター【SimMan 3G、SimBaby、HPS等】を用いる。シナリオ内容は作成者およびセミナー管理者にのみ知らされ、実習参加者はシナリオの内容を知らずに急変対応を行っていく。実習の様子はビデオモニターで撮影・記録され、上記チーム以外の参加者はその映像をリアルタイムで観察する。実習終了後、記録ビデオを参考にしながら、全参加者でデブリーフィング(振り返り)を行う。 ・研修の期間・実施回数 4回/年 ・研修の参加人数 約44名/1回
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 「入職者研修」病院、看護部組織と運営、看護業務および看護補助業務、就業上の諸規則と福利厚生、勤務・労務管理、事務部の業務、看護職者の学習とキャリアアップ、新人のメンタルヘルス、放射線部の業務、災害対策、看護記録と記載基準 「新任看護師長研修」看護部組織と運営、看護師長に求められる役割、人事・労務管理と人事評価、看護業務管理、看護の質保証と経営、人材確保、人材育成、医療安全 ・研修の期間・実施回数 「入職者研修」平成28年4月4日・1回 「新任看護師長研修」平成28年4月6日、11日、22日、28日、5月12日、30日、7月26日・7回 ・研修の参加人数 「入職者研修」143名 「新任看護師長研修」3名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 山本 修一	
管理担当者氏名	企画情報部長 鈴木 隆弘 医療安全管理部長 相馬 孝博 臨床工学センター長 織田 成人 管理課長 鈴木 一雄 医療サービス課長 田辺 朗	薬剤部長 石井 伊都子 感染制御部長 猪狩 英俊 総務課長 奥井 雅博 医事課長 高橋 忠浩

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	企画情報部 医療サービス課
		看護記録	企画情報部 医療サービス課
		検査所見記録	企画情報部 医療サービス課
		エックス線写真	企画情報部
		紹介状	企画情報部 医療サービス課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	企画情報部 医療サービス課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課 医療サービス課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部

に規 掲則 げ第 る一 事条 項の 十一 第一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全課	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医療安全課	

		保管場所	管理方法
病院の管 理及び運 営に關す る諸記録	規則第 一条の 十一第 二項第 一号から 第三号 までに掲 げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医療安全課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課 医療安全課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医療安全課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課 医療安全課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター 管理課
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター 管理課		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター 管理課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課 医療安全課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課 医療安全課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医療安全課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医療サービス課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医療安全課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課 医療安全管理部 医療安全課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 監査室（大学）
職員研修の実施状況	医療安全課		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医療安全課 薬剤部 管理課		

管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所（キャビネット等）で保管・管理している。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 山本 修一		
閲覧担当者氏名	総務課長 奥井 雅博	管理課長 鈴木 一雄	
	経営企画課長 岡田 裕二	医事課長 高橋 忠浩	
	医療サービス課長 田辺 朗	医療安全課長 伊藤 幹雄	
閲覧の求めに応じる場所	患者相談室		
閲覧の手続の概要 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧したい旨の申し出があった場合、閲覧希望のあった諸記録を所掌する閲覧担当者が閲覧責任者に確認の上、患者相談室において求めに応じる。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>基本的な考え方 医療安全に関する組織と取組 医療安全管理のための職員研修 医療上の事故等の報告 医療上の事故等発生時の対応 患者等への当該基本方針の閲覧 患者からの相談への対応 その他の医療安全推進への対応 その他</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 11回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院において重大な問題やその他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。2. 上記の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。3. 上記の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の実態及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。6. 4. 及び 5. の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。7. その他医療安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年7回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 平成 28 年度第 1 回医療事故防止セミナー (全職員対象) 平成 28 年 6 月 20 日・24 日・29 日 「抗菌薬の適正使用にむけて」 「最新の個人情報漏洩事例、セキュリティ対策について」 「報告から検討へ」 「児童虐待対応について」2. 平成 28 年度第 2 回医療事故防止セミナー (全職員対象) 平成 28 年 11 月 30 日 「BEST PRACTICE 賞発表・表彰式」3. 平成 28 年度第 3 回医療事故防止セミナー (全職員対象) 平成 29 年 1 月 17 日・18 日・19 日 「情報安全管理体制について フィッシングメールへの注意喚起」 「MRI 検査の安全管理」 「医薬品の安全管理-インシデント事例から-」 「いざという時の DC・AED」 「こんな時には MET コール! -当院における MET 活動の現状-」4. 第 26 回急変対応セミナー (全職員対象) 平成 28 年 6 月 3 日「リハビリテーション部」5. 第 27 回急変対応セミナー (全職員対象)	

<p>平成28年9月30日「感染症内科、糖尿病・代謝内分泌内科」</p> <p>6. 第28回急変対応セミナー（全職員対象） 平成28年12月1日「内視鏡センター、中央診療施設」</p> <p>7. 第29回急変対応セミナー（全職員対象） 平成29年3月3日「泌尿器科、放射線科」</p>
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明書・同意書の記載内容について現状把握を行った結果を各診療科のリスクマネージャーにフィードバックし、修正依頼を実施した。課題として、インフォームド・コンセント取得のプロセスの質的な監査を実施するための仕組みの構築があげられ、「医療行為の説明及び同意の取得に関する規程」と診療録の記載内容を確認するための「診療情報管理規程」を作成し、説明と同意に関する監査を開始した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 基本的な考え方・ 委員会、その他組織に関すること・ 院内感染対策のための研修等・ 感染症の発生状況の報告・ 院内感染発生時の対応・ 患者等への当該基本方針の閲覧・ その他の院内感染対策推進への対応・ その他	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年13回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 院内感染の実態把握のための調査及び点検に関すること。・ 院内感染予防策の立案に関すること。・ 院内感染発生時の対策に関すること。・ 職員に対する院内感染予防対策の教育に関すること。・ 院内感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。・ その他院内感染予防対策に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 平成28年度第1回ICTセミナー（全職員対象） 平成28年6月20日・24日・29日 「抗菌薬の適正使用にむけて」 「最新の個人情報漏洩事例、セキュリティ対策について」 「報告から検討へ」 「児童虐待対応について」・ 平成28年度第2回ICTセミナー（全職員対象） 平成28年11月21日・22日・25日 「ICT環境ラウンドから見える課題について」 「ノロウイルス感染症対策について」 「麻しん・風しん感染症についての情報提供」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">ICTラウンド（週1回）と報告<ul style="list-style-type: none">・ 診療コンサルテーション報告・ 分離菌報告・ 特定薬剤使用状況報告・ 抗菌薬ラウンドICN・事務職員・清掃業者による環境清掃ラウンド（月2回）と報告MRSA・MDRP・CREを対象としたICTラウンド（月1回）と報告職員感染対策<ul style="list-style-type: none">・ 針刺し・切創、血液・体液曝露外来の実施・ 職員の抗体検査と予防接種の実施医療関連感染サーベイランスの実施とフィードバック<ul style="list-style-type: none">・ カテーテル関連血流感染（血液内科、小児科、小児外科）・ 手術部位感染（肝胆膵外科、食道・胃腸外科）病院職員・外部委託業者に対するワクチン接種感染防止対策の地域連携に関する活動<ul style="list-style-type: none">・ 感染防止対策地域連携加算に係る相互チェックの実施（連携医療機関と相互に年1回ずつ）・ 感染防止対策加算に係るカンファレンスの開催（連携医療機関と年4回）	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">新規採用者ガイダンス（研修医を含む新規採用者対象） 平成28年4月6日 「抗がん薬の取扱いについて」新人看護師研修（新人看護師対象） 平成28年4月20日・21日・22日 「与薬について-看護業務に必要な医薬品の知識-」平成28年度第3回医療事故防止セミナー（全職員対象） 平成29年1月17日・18日・19日 「医薬品の安全管理-インシデント事例から-」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成（有・無）業務の主な内容： 医薬品の採用を審議する薬事委員会の開催及び適正運用の実施 医薬品の購入及び麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬、厳重管理薬、特定生物由来製品等の適正管理の実施 患者に対する安全な医薬品供給のための調剤、交付、過誤防止対策、薬剤管理指導等の実施 医薬品情報の収集及び提供の実施 各部門における手順書に基づいた業務実施状況の確認 等	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備（有・無）その他の改善のための方策の主な内容： 医療法施行規則第9条の23第1項第8号に則り、未承認医薬品については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。 院内製剤についても、日本病院薬剤師会の指針に則りクラス分類を導入し、クラスに応じた審査を取り入れている。また、使用後の評価も徹底する運用としている。 その他、医薬品の安全使用に係る医薬品情報は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者（医薬品情報室長）から医薬品安全管理責任者への報告を行い、医薬品安全管理責任者から院内への周知を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 28 回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器 (5) ・ 輸液・シリンジポンプ・閉鎖式保育器 (2) ・ 血液浄化装置 (6) ・ 人工心肺及び補助循環装置 (2) ・ 除細動器 (2) および新規導入の機器 (7)、年 24 回 診療用高エネルギー放射線発生装置 (リニアック) の安全講習会 (年 2 回) 診療用放射線照射装置 (アフターローディング) の安全講習会 (年 2 回)	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) ・ 保守点検の主な内容： 診療用高エネルギー放射線発生装置 (リニアック)、診療用放射線照射装置 (アフターローディング)、生命維持管理装置 (人工心肺および補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・徐細動器・閉鎖式保育器) 当院で定めた機器 (CT・MRI・血管造影装置・核医学診断装置、輸液・シリンジポンプ・フットポンプ・生体情報モニタ 等)	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 未承認機器については病院持ち込み時に事務を通すことを通知。その時点で説明会の開催を必ず行うように指示し、報告書の提出をさせている。前年度の未承認機器使用実績は報告なし。 臨床工学技士を配置し、院内の安全管理部員を兼任とすることで、院内で起こった医療機器に関するインシデント等に早急に対応、安全管理部との共同配信文書として院内へ配信することができている。 また、全体で行う院内講習会のほか、インシデント発生等の際には原因を究明し、部署別・事例別の講習会を開催し、再発防止に努めている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院における医療安全管理に関する基本方針」第 2 の 1 に千葉大学医学部附属病院規程第 6 条第 6 項の規定により医療安全管理責任者に任命された副院長は、医療安全管理部、医療の質・安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等を統括すると定めている。本院の医療安全管理責任者である常勤医師の副院長は医療の質・安全管理委員会等に出席し組織的に医療事故防止について検討し、患者に安全・確実な医療を提供するため病院長と共に医療安全管理対策に取り組んでいる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (10名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認を行わせることとしている。</p> <p>医薬品情報室長を実施担当者として指名し、病院における未承認等の医薬品の使用のための処方状況や、採用されている医薬品全般の医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し、管理するとともに、得られた情報のうち必要なものは院内全教職員へメールにて周知を行っている。また、特に周知状況の確認が必要と思われる重要周知事項については、全職員がインシデントレポートシステムからログインして閲覧を行う事により、閲覧状況を確認できる方策をとっている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有を行わせることとしている。</p> <p>薬剤師 GRM を実施担当者として指名し、未承認新規医薬品等担当部門と連携を取ることで、院内における未承認新規医薬品等の使用の適否決定状況及び適正使用の確認を行っている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有) ・無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部，職種 薬剤師 (医薬品情報室長)) (所属：薬剤部，職種 薬剤師 (GRM))</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・無)</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：説明・同意文書の質的監査を行い、不十分な項目については診療科へフィードバックを行っている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療情報管理規程を制定し、診療情報管理責任者を配置した。診療情報管理責任者は診療録等の記載内容を確認させるなどにより、診療録等の適切な管理を行っている。具体的には診療録等の管理に関する責任者の指示のもと、カルテの搬送、製本、貸出・閲覧、電子化、入出庫、廃棄等を行うと共に、診療情報管理士のチェックリストによる点検、医師・看護師を含めた診療録の監査を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（21）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（12）名</p> <p>うち薬剤師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療の質・安全管理委員会に係る事務 ・事故その他の医療安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はとの家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく病院職員への必要な指導 ・医療に係る安全管理に係る連絡調整 ・医療に係る安全の確保のための対策の推進 ・医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング ・全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の企画、実施及び医療安全に関する認識状況の確認 ・各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づく、医療安全確保のための業務改善計画書の作成及びそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録 ・医療の質・安全管理委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いその他の医療安全管理者の活動実績の記録 ・医療安全に係る取組み及びその評価を行うカンファレンスの実施 ・その他医療安全の推進に関すること <p>※専任の医療に係る安全管理を行う者2名については、薬剤師の資格を有しており、医療安全に関する必要な研修を修了している。また、医療安全管理部の部員及び医療の質・安全管理委員会の委員として構成員に含まれており、医療安全対策の推進に関する業務に専ら従事している。（経過措置の適用により、平成28年10月1日から5割以上医療安全管理業務に従事する薬剤師2名を医療安全管理部門へ配置し、平成32年4月1日からは専従の薬剤師1名を配置する予定である旨を厚生労働大臣へ届出済み。）</p> <p>※診療内容のモニタリングとしては、医療の質・安全管理委員会にて毎月肺動脈塞栓症予防対策率・発生率を報告している。また、従業者の医療安全の認識についてのモニタリングについては、医療安全管理に係る全職員に対する研修を実施した際に、e-ラーニング等により理解度の把握を行っている。</p> <p>※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・活動の主な内容： 高難度新規医療技術を用いた医療行為の取扱いについて必要な事項（申請手続、実施後の報告等） 高難度新規医療技術担当部門の組織及び運営に関し必要な事項（業務内容、組織、遵守状況の確認等） ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）
--

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・活動の主な内容： 未承認新規医薬品等を用いた医療行為の取扱いについて必要な事項（申請手続、実施後の報告等） 未承認新規医薬品等担当部門の組織及び運営に関し必要な事項（業務内容、組織、遵守状況の確認等） ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） 	

⑨ 監査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・監査委員会の開催状況：年 2 回 ・活動の主な内容： 平成28年10月1日付けで、医療に係る安全管理に関する事項と特定臨床研究の業務執行の状況に関する事項を監査する「国立大学法人千葉大学医学部附属病院監査委員会」を設置し、平成28年度の業務執行状況については、平成29年1月25日に中間監査、5月29日に期末監査を実施した。監査結果については、本学ホームページ上で公表されており、医療に係る安全管理については、適正な医療安全管理体制である旨の評価を受けた一方、「デスクンファレンスの推進」「インフォームド・コンセント実施体制の整備」等について意見を頂戴し、医療の質向上に向けて適宜改善策の検討を行っている。 ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・公表の方法： 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学 名誉教授	○	医療安全識見者かつ 病院管理経験者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
手島 英男	税理士法人千葉 中央会計事務所 所長		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究 に関する学識経験 者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院 社会科学研究院 教授		法律学専門家	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
岩間 厚志	千葉大学大学院 医学研究院教授		千葉大学学術研究 推進機構研究活動 適正推進部門研究 活動適正推進部会 副部会長	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
矢島 鉄也	千葉県病院事業 管理者		病院管理経験者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
藤原 康弘	国立研究開発法 人国立がん研究 センター中央病 院副院長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
花輪 正明	塩野義製薬株式 会社薬事部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
齋藤 宏暢	第一三共株式会 社研究開発本部 オンコロジー臨 床開発部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
井上 安	独立行政法人中 小企業基盤整備 機構関東本部千 葉大亥鼻イノベ ーションプラザ チーフインキュ ベーションマネ ージャー		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 412 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 136 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- ・入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関する事象。
- ・入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関する事象。
- ・上記の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関する事象。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ） 無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ） 無）
- ・技術的助言の実施状況

※前年度は実績なし。平成 29 年 10 月～11 月頃に実施予定

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者相談窓口で受け付けを行い、医療安全管理に関する相談内容の場合は医療安全管理部に報告を受けている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 無 ）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ 有 無 ）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 無 ）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

前年度は実績なし。

平成 29 年 6 月 5 日から複数回で開催した「平成 29 年度第 1 回医療事故防止セミナー」において、「医療安全の最新情報」として医療法施行規則の一部改正に係る内容を全職員に周知した。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

前年度実績：

管理者（平成 29 年 1 月 28 日 第 2 回病院長塾 国立大学附属病院長会議常置委員会主催）

今年度実績：

医療安全管理責任者（平成 29 年 6 月 19 日～23 日 第 12 回医療安全管理者研修 国家公務員共済組合連合会シミュレーション・ラボセンター主催）

医薬品安全管理責任者（平成 29 年 6 月 30 日 平成 29 年度医薬品安全管理責任者等講習会 一般社団法人日本病院薬剤師会主催）

医療機器安全管理責任者（平成 29 年 8 月 19 日 平成 29 年度医療機器安全基礎講習会（第 39 回 ME 技術講習会） 公益社団法人日本生体医工学会 公益財団法人医療機器センター主催）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本適合性認定協会 平成28年3月17日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページや広報誌、パンフレット等において、特定機能病院としての役割についてわかりやすく案内している。 また、各診療科の診療実績を公表するなど、患者さんや地域に向けた情報発信を積極的に行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	

厚生労働大臣 殿

国立大学法人千葉大学長
徳久剛史 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

管理者：平成 29 年 1 月 28 日 第 2 回病院長塾 国立大学附属病院長会議常置委員会主催
医療安全管理責任者：平成 29 年 6 月 19 日～23 日 第 12 回医療安全管理者研修 国家公務員共済組合連合会シミュレーション・ラボセンター主催
医薬品安全管理責任者：平成 29 年 6 月 30 日 平成 29 年度医薬品安全管理責任者等講習会 一般社団法人日本病院薬剤師会主催
医療機器安全管理責任者：平成 29 年 8 月 19 日 平成 29 年度医療機器安全基礎講習会（第 39 回 ME 技術講習会） 公益社団法人日本生体医工学会 公益財団法人医療機器センター主催

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（21）名
うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（12）名
うち薬剤師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（1）名
うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名
※その他の兼任は臨床検査技師等

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成 28 年 10 月 1 日より、5 割以上医療安全管理業務に従事する薬剤師 2 名を配置している。平成 32 年 4 月 1 日からは専従の薬剤師 1 名を配置する予定。